

**DEAFENING SILENCE : Media Response to the May 9th Event and its Implications
Regarding the Truth of Disclosure
By : Jonathan Kolber**

**異常な沈黙：5月9日の出来事に対するメディアの反応と
公開の真実に関わる意味**

執筆：ジョナサン・コルバー

2001年5月9日のワシントン・ナショナル・プレス・クラブでの
公開プロジェクトによる歴史的記者会見についての論説
(2002年5月1日付文書；[公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

本文の目的は、2001年5月9日のナショナル・プレス・クラブにおける記者会見について、メディアが奇妙なほど限られた取り上げ方しかしなかったことの重大な意味を明らかにすることである。

あの記者会見では、20数人の証人が前に進み出て、ET(地球外知性体)の工学技術、またETに関係した工学技術について、彼らが直接に知っていることを証言した。これらの証人たちの主張によれば、彼らは最高機密取扱許可を持ち、軍と民間において最高度の任務を遂行してきた。その何人かは、検閲されていない機密文書を皆の前に大きく掲げて見せた。世界の主要メディアが出席していたにもかかわらず、そこで見たものを報道した機関は少なかった。多くは懐疑的な言及さえしなかった。

こんなことがあるのだろうか？ 重要な法的裁判では、あの日に提示されたものより弱い証言にもとづいて判決が下される。実刑判決は、もっと弱い証拠にもとづいている。ウォーターゲート事件の最初の証拠は、もっと弱かった。そして、これが意味するものにくらべたら、ウォーターゲートなど大したことではない。それにもかかわらず、この静けさは異常である。

三つの可能性

もしそれが真実なら、証人の証言は文字どおり、全く新しい平和な世界と全人類の繁栄をもたらす基盤の到来を告げるものだ。ディスクロージャー(公開)の真実性を検証することは、おそらく現代の最重要問題である。人類の未来に対するその意味があまりにも大きいので、事実上そのほかのすべては二次的な事柄になるほどだ。しかしメディアは、その検証をしてくれなかった。証人の証言を立証または反証するための、いかなる調査報道もなされてこなかった。

資料不足がその原因ではあり得ない；この論説の残りの部分で、私は5月9日に世界のメディアに配られた資料にもとづき、検証を行なってみようと思う。

私の考えでは、ただ三つの可能性がある：証人たちは全員嘘をついていた、彼らは全員妄想に取り憑かれていた、または、彼らは史上最大の隠蔽工作を立証していた。その理由は次のとおりだ。もし証人の誰か一人でも嘘もついでいなかったし妄想にも取り憑かれていなかったなら、そのとき

公開の真実性は立証される。これらの可能性について、順に吟味してみよう。

もし証人たちが嘘をついていたなら、分別のある立会人はこう訊いただろう。“見返りは何だ？”誓約をして議会で証言する機会を与えてくれと訴える嘘つきにとり、考えられる利益は何か？最もありそうな見返りは、刑務所への旅だろう。これらの証人たちは、いかなる金銭的対価、講演の契約、あるいはそのような何もかも公然とは要求していない。そして公開プロジェクトの活動は、20 数人に報酬を支払う能力を持たない。同プロジェクトの“生産物”をざっと眺め、シャーロットビルにあるそのオフィスに行ってみれば、それが分かるだろう。さらに、その親組織である CSETI (地球外知性体研究センター) は、IRS (米国税庁) 501C3 非営利組織であり、その資金不足は公式の記録事項だ。だから、証人たちが何か物質的な利益のためにそうしていたという考えは、手元にある事実からだけでも根拠がない。

私が知る限り、何か抵抗し難い利益への期待なしには、大勢の人間が嘘をつくために結託することはない。金でないとしたら、この場合私が考えつきたただ一つのことは、イデオロギーである。一体どのような過激派の“イデオロギー”が、民間企業と軍の高い地位にいた、このような様々な証人たちのグループをもっともらしく結びつけることができるだろうか？彼らのほぼ全員が、これまで言葉と行動で合衆国に対する一貫した忠誠を示してきたのである。私にそのようなものは見出せない。だから、私は嘘はありそうもないとこれを退ける。

さらに、証人たちの主張によれば、彼らは見事な信用資格を持っている。その中には一人の准将、一人の提督、以前に核発射ボタンに手をかけていた人々、航空交通管制官たち、米国の主要企業の副社長たちがいる。彼らは日常的に人々の生命を管理下に置くか、すべての人々に影響を与える決定をしていた。私が知る限り、5 月 9 日以来の半年間に公的な場でその信用資格が疑われた人は、一人もいなかった。もし彼らが集団で嘘をついていたなら、それを暴露することは一部の記者にとり手柄になっていただろう。しかし、それは起きなかった。

もし、証人たちの全員が妄想に取り憑かれていたなら、分別のある立会人は、このような“集団精神病”は急に現れたものではないと推測しただろう。つまり、多数の証人たちは過去に、おそらく場合によっては入院をも含め、精神異常の傾向を示していたはずだ。私が知る限り、その疑いはこれまで誰からも主張されていない。

もし、彼らが史上最大の隠蔽工作を立証していたなら、5 月 9 日に特定事例の詳細を列挙した説明資料が多数の出席記者たちに配られていたのだから、公聴会開催の全国的な要求とともに、その報道はかつてないほどメディアで大きく扱われていただろう。このどちらも起きなかった。

意味するもの

メディアの状況と証人の証言について、上記の事実と推論が意味するものは何か？私の考えでは、それらは多くを意味している。

もし、証人たちが嘘もついていなかったし妄想にも取り憑かれていなかったとすると、5 月 9 日の後の異常なメディアの沈黙は、*真実を探求し明らかにすることを失敗させる*、ある国際的な工作があ

ったことを意味する。はっきり言えば、それは検閲があったことを意味している。(もし私が正しいなら、このことはそれ自体でメディアの注意を引く重大な爆弾発言である — それをメディアが受け入れることはないだろう) 重要性において 5 月 9 日に匹敵する話題は、第三次大戦、何百万もの人々を死に至らしめる疫病、そのようなことだ。それにもかかわらず、5 月 9 日と 9 月 11 日の間、ニュース報道は比較的瑣末な話題で埋め尽くされた。

説明資料は出席していた記者たちに配られた。これらの資料は、真実を探求するあの記者たちにとり十分に配慮されたものだった。しかし、ウォーターゲートのような報道も、証人のペテン行為を暴く報道もなされなかった。

証人の一人は、実際は米国政府のために働きながら主要メディアの職員名簿に名を連ねる、43 人の人物がいることに気付いた様子を報告した。彼らの任務は ET に関係した話題を途中で押さえ、それを潰し、情報操作し、あるいは愚弄することだった。もし彼の証言を事実として受け入れるなら、5 月 9 日の後の異常な沈黙はそれで説明がつく。

この状況の中で、一つの希望も見える。メディアのいくつかは、ほんの数日間であったとしても、確かに実際に報道した。これが示すものは、メディアの報道を支配している者たちの権力は一枚岩ではないということだ；彼らの裏をかくことはできる。あの日の出来事はインターネット上を駆け巡り、25 万人の視聴者により目撃された。ただし、“巧妙な電波妨害”が最初の 1 時間続いた(これを言ったのは放送接続業者であって、公開プロジェクトではない)。実際、公開プロジェクトのウェブサイトには、あの日の完全な記録映像が掲載され続けている。

結論

証人のペテンあるいは集団精神病を暴くことは、それ自体一部の記者にとってはおいしい、出世に結びつく話題であったはずだが、そのような話は一つも報道されなかった。だから私の結論は、これらの証人たちは彼らが主張するとおりの人々であるということだ。

もしこれらの証人たちが、彼らが主張するとおりの人々であるなら、彼らは彼らが真実だと信じる証言を提示したのだ。その上、あの証言の事実に関する詳細について、メディアの中で異議が唱えられたことは一度もない。その調査を行なうのに、半年間というのは十分な期間である。証言は提示されたとおりの真実であると私は信じる。

もしデータが提示されたとおりに真実で、メディアが現代における、誰もが認める最大のストーリーを本質的に無視しているとすると、そのときメディアは彼らが行なうと主張している仕事を遂行していないことになる。彼らは抑圧または検閲されているか、人々がこの話題に興味を示すとは信じていないかのどちらかである。

タブロイド紙は ET 関連の話題を取り上げ続けているし、世論調査は人々がこの話題に高い関心を持っていることを示している。だから、関心の欠如という評価は説明になり得ない。私の結論は、能動的な抑圧があるということだ。これは、43 人の情報機関スタッフが主要メディアの職員名簿に名を連ねているという証人の主張により、裏付けられる。

能動的な抑圧があるにもかかわらず、5月9日の出来事についての十分な報道が主要な出版と放送メディアで行なわれ、抑圧を阻止できることを証明した。十分な影響力を持ち組織化された重大な出来事は、検閲を突破することができる。ETに関係した工学技術と、それがアラブの石油への我々の依存を終わらせるためにどれほど重要な意味を持つかについて、以前は気付かなかったか懐疑的だった何百万もの人々は、あれ以後そのことに気付くようになった。

我々は管理社会に生きている。その中で管理は秘密にされるが、開放されているかのように偽装される。それでも、5月9日に立証されたように、この管理は決意を持った人々のグループ(複数)の協調努力により、打開できるものだ。このような機会を、我々は再び追求すべきである。

(訳: 廣瀬 保雄)

Press Release - November 13, 2007
INSIDERS EXPOSE REASONS FOR SECRECY

報道発表 - 2007年11月13日
複数の部内者が秘密の理由を暴露

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

公開プロジェクト(ディスクロージャー・プロジェクト www.DisclosureProject.org) 責任者のスティーブン・M・グリア博士は、複数の政府部内者がUFOに関係する闇の、高度に機密化された計画が存在することを暴露したと報告する。

秘密の理由は単純である: 高度に機密化された計画の慣性, 秘密を強化するために行なわれた過去の不法行為に対するきまり悪さ, そして不可解な UFO 物体の背後にあるエネルギーと推進システムがこれまで研究され, 完全に解明されたという事実である. この公開は石油, ガス, 石炭, および他の従来型のエネルギー形態に終止符を打ち, それにより, 現在の石油に基盤を持つ地政学的秩序と経済を終わらせることになるだろう. 真実は, 我々の税金がこの事柄を研究するために数十年間使われ, 今がその投資の配当を受け取る時だということである. この事実の全面公開は, 人類が地球温暖化や石油の必要性を伴わずに, 持続可能な文明に到達することを可能にするだろう.

最近の合衆国政府に対する UFO 調査の要求は, このような調査が現在も進行中の, 高度に区画化された最高機密であるという事実を考慮に入れていなかった.

グリア博士は次のように述べる: “すでに 1993 年, 私が CIA 長官のジェームズ・ウルジーに UFO 問題について直接背景説明を行なったとき, クリントン大統領とウルジー氏が接近を拒否された, 進行中の秘密計画(複数)があることを知った. 当時バード上院議員(ウェストバージニア州-民主党)が議長をしていた上院歳出委員会の首席弁護士が直接私に語ったところでは, 年間 1 千億ドル以上の資金が UFO 計画を含むいわゆる‘闇の’プロジェクト(複数)に流れていた. しかし最高機密取扱許可と召喚権限をもってしても, 秘密のベールに分け入ることはできなかった”

その後で, グリア博士は慈善家ローランス・ロックフェラーと協力して, クリントン大統領とヒラリー・クリントンに詳細な背景説明資料を渡した. 彼らはロックフェラー氏のJY牧場に滞在していたときにそれを読んだ. (その背景説明資料は<http://www.DisclosureProject.org/access.htm>にある)

グリア博士は“クリントン夫妻は問題をこれ以上公開することを拒んだ. CIA 長官ウルジーは, 彼らが管理も接近もできない計画を公開することはできないと正直に述べた. ウルジー氏とクリントン夫妻は, 秘密とその背後にある権力に動揺していた”と報告する.

そのとき以来, 公開プロジェクトは数千の合衆国公文書, またコード名と番号を含む, UFO を扱う計画(複数)についての最高機密取扱許可を持つ軍と企業の証人たちを見出してきた. このような活

動は無法であり, 議会監視委員会(複数)の力が及ばないところにある.

さらなる情報, またはグリア博士へのインタビューの希望は, こちらの窓口まで.

<http://www.DisclosureProject.org>

注記: ローランス・ロックフェラーとクリントン夫妻に言及している二つの段落は, 我々がそれを報道発表サービス - PRNewswire.com を通じて送信したとき, この報道発表から削除せざるを得なかった. というのは, 彼らはその言及が含まれた最初の報道資料を送信することを拒否したからである. それは彼らの組織で指揮系統の上層部に回付され, 彼らによって検閲された. もしあなたが, 我々には自由な報道機関があると考えているなら, 考え直した方がよい. これは出口(複数)そのものでさえない, その入り口で検閲されたのである!

(訳: 廣瀬 保雄)

Press Release - November 14, 2007
OPEN LETTER TO GOVERNOR SYMINGTON AND JAMES FOX

THE DISCLOSURE PROJECT
STEVEN M. GREER MD, DIRECTOR
14 NOVEMBER 2007

報道発表 - 2007年11月14日
サイミントン知事とジェームズ・フォックスへの
公開書簡

公開プロジェクト
スティーブン・M・グリア 医師, 責任者
2007年11月14日

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

親愛なるサイミントン知事並びにフォックス氏,

月曜日の素晴らしい記者会見, おめでとうございます(*フォックス氏らにより組織された 2007 年 11 月 12 日の米国政府に向けたUFO再調査要求). 私たちは公開への取り組みが継続していること, また公開プロジェクト(ディスクロージャー・プロジェクト <http://www.DisclosureProject.org>) が世に出した証人と資料の一部が人々に届き続けていることを目にし, 勇気づけられました.

政府/民間の委員会が UFO 問題を調査するよう要求されたことについて, 私たちはこの要求を行なったあなたたちの賞賛すべき目的を高く評価する一方で, このような取り組みの予期せぬ戦略的影響について心配しています. すなわち:

- 合衆国と他の政府の諸部門に存在し, その大部分が民間機関および企業との‘他から頼まれた仕事’の契約を通じて活動している, 強力で豊富な資金を持つ認められざる特殊接近プロジェクト(USAPs)が, すでに数十年にわたり UFO/ET(未確認飛行物体/地球外知性体)問題を研究していることを認識することが重要です.
- これらのプロジェクトはその性質において無法であり, 違憲であり, 汎国家的です. 私が CIA 長官 R・ジェームズ・ウルジー, 国防情報局長官パトリック・ヒューズ将軍, 統合参謀本部情報局長(J2), 要となる議会の委員会(上院情報委員会, 下院監督委員会など)の重要メンバー, とりわけこういった人々に直接背景説明を行なった中で, 指揮系統は妨害され続けてきたことが明らかになりました. 現在のコード名と番号を J2 に知らせ, その後で彼がペンタゴンの中にこれらの USAPs の一つを見つけ出し, その活動の情報が‘読み込まれる’(または説明される)ことを要求した後でさえ, これらのプロジェクトに接近することを拒まれた, そうこの提督は私たちに語りました.
- これらの ET 輸送機の背後にある科学と工学技術は, 少なくとも 1940 年代から研究され続けて

おり、その大部分が解明され、複製されています。彼らのエネルギーと推進システムは、もしそれが公開されたなら、石油、ガス、石炭、原子力、公共施設などの必要性を一掃するでしょう。多くの UFO 目撃は、実際にはロッキード・マーチン、ノースロップ・グラマン、SAIC、および他の軍事請負業者により開発され、1950 年代終わりから飛ばされている進歩した航空機です。

- 重要なことは、あなたたちが提言している委員会にとってもよく似たコロラド大学のコンドン委員会
が、1969 年に国民に対して罪を犯したペテン師になり下がり、その責任者であったコンドン博士は、知られざる秘密のCIA情報提供者だったということです(CIA長官のウルジーに背景説明をし情報公開(FOIA)要求をした後で、私たちはこの事実を確認するあるCIA文書を入手しました)。当時マクドネル・ダグラス・エアロスペースにいたロバート・ウッド博士がコンドン委員会に関わっており、コンドン博士が報告からあらゆる信頼すべき証拠を削除していたこと、他の委員会メンバーの目からそのような証拠を隠しさえしていたことを見つけました(ウッド博士による www.DisclosureProject.org の証言を見よ)。ウッド博士がコンドン博士のこの挙動を問題にしたところ、コンドン博士は直接マクドネル氏に連絡し、ウッド博士を辞めさせようとしていました。今日のこのような委員会は、どれも多分同様の墮落したイカサマでしょうし、それは公開の重大な妨げとなり、隠蔽をさらに深めるだけでしょう。
- 上記のことに鑑み、私たちは UFO 目撃者の共和党デニス・クチニチが議長を務める下院政府内政監査小委員会(House Government Oversight Subcommittee for domestic affairs)、または同様に公正で信頼のできる議長に率いられたその他の委員会など、関連のある議会の委員会の前で、公開された隠し立てのない公聴会を持つことを推奨します。代案として、国連または国際法廷による公聴会も容認可能な場でしょう。
- 重要なことは、現在公開プロジェクトには裏付け公文書、プロジェクトのコード番号と名前に加え、世界中からの 400 人を超える軍、政府、企業、および情報機関の証人がいるということです。公開されテレビ放映される公聴会の前で証言するこのような証人たちの集まりは、公正な実況公開を確実なものにするでしょう。この取り組みは、公開され公正な議長に指揮される限り、政府委員会の調査よりは墮落する可能性はるかに小さいでしょう。

私はあなたたちが UFO についての真実の公開に向けたこの重要な仕事において、大きな成功を収めることを望むとともに、公開プロジェクトの全員が可能なあらゆる手段で、いつでもあなたたちを支援する用意ができていることを断言したいと思います。この問題をもっと議論するために、いつでも遠慮なく私にご連絡ください。

常に最善を、

スティーブン・M・グリア 医師
責任者
公開プロジェクト

(訳:廣瀬 保雄)

EXOPOLITICS or XENOPOLITICS?

by Steven M. Greer M.D.

Director, The Disclosure Project

<http://www.DisclosureProject.org>

Copyright 2006

異星人政策，それとも異星人排斥か？

執筆：スティーブン・M・グリア 医師

ディスクロージャー・プロジェクト責任者

<http://www.DisclosureProject.org>

著作権 2006年

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

訳者注記：EXOPOLITICS はマイケル・E・サラ博士により 2005 年 4 月 7 日に設立された UFO 研究組織

注記：この論文は全文掲載に限り配布自由である。

新興している異星人政策 (exo-politics) の領域が、流言、都市神話的憶測、および扇動的なよそ者嫌い (xenophobia) に向けて、危険で破滅的な結果をもたらしかねない方向転換をしたのを、我々は相当な懸念を持って注視してきた。

ある地球外文明が、我々の歴史のこの時期になぜ地球を訪問したいと思ったかについては、確かに様々な意見がある。しかし、マイケル・サラによる最近の一般に向けたコメントは、全く薄弱な証拠に基づく、悪意に満ちたよそ者恐怖症の傾向を付け加えた。通常私は、ある種の間人が信奉する意見に関して論評するのを控えているが、沈黙しているだけでは恐怖、憎悪、偏見のメッセージがさらに勢いを増す - そして兵器と宇宙戦争への議論を無意識のうちに支持する - 時点に至ったと感している。

明らかに、地球外研究の広大な分野では、知られていることよりも知られていないことの方が多い。また、この人類-地球外知性体の関係の初期段階では、学び、探求し、発見すべきことがまだ多く存在する。しかし、この点に関して平和的政策を支持すると主張していたサラは、この 1 年の間に ET (地球外知性体) の行動について偏見に満ちた危険な解釈を提示した - ある背の高い白色系 ET 種族が、2004 年のボクシング・デー津波 (* 2004 年 12 月 26 日に発生したスマトラ沖地震による津波) を引き起こしたという、馬鹿げた非難までしてみせた！彼の主張によれば、非道で暴力的な ET たちのグループが、闇の人間たちと秘密協定を結んだ - そして人類に向けた有害な行動計画を持っている。ほかにもまだある。

公開プロジェクト (ディスクロージャー・プロジェクト) には、実際の UFO/ET (未確認飛行物体/地球外知性体) 事象とプロジェクト (複数) について直接の知識を持つ軍、政府、および企業の部内者が 450 人以上いる。これらの部内者のうちただの一人も、サラにより提示されたよそ者嫌いの流

言を確証していない。これは奇妙なことだ。

都市神話や流言を事実として混淆することは、賭けられているものが何かを考えると、危険な先例である：ET／人類の相互作用と関係の初期段階。我々は流言や風説 - しばしば UFO の主題を中傷したり恐怖や偏見の種をまき散らす任務を負った防諜工作員たちに発信源を持つ - のすべてを、結論に到達するための立脚事実として向こう見ずに受け入れることはできない。

すべての話を - それがどんなに危険なよそ者嫌いのものであろうと - 軽薄に真実として受け入れるのは無責任であり、それは大衆が偽情報を与えられ、恐怖に陥り、結局は脅されて ET 問題への宇宙の軍事化という解決策を容認するのを見たい輩の行動計画に利するだけである。

考えてみて欲しい：公開プロジェクトは、他の研究者たちと同様に、数十年に及ぶでっち上げられた UFO 関連事象のパターンを知っている。それは疑似コンタクト体験（誘拐としても知られる）、動物切断、生体解剖、その他の同類のものに集中する。そのことを立証する数多くの軍と陰の政府の証人たちは、彼らの重要な心理作戦のために実際に誘拐や動物切断を実行したと私に証言した。このような証人の一人、特殊作戦に関わった陸軍レンジャーは、私に次のように語った：“我々がどれほど多くの人々 - 著名な軍人や政治家たちを含む - を誘拐し、恐怖を与え、彼らが ET の存在を嫌悪し闘争を支持するように仕向けたか、あなたには全く分からないでしょう...”

1980 年代のマーチン・キャンノン、そして後には MILAB (Military Abduction; 軍事誘拐) という本が、彼らの重要な心理作戦のために電子技術、ARVs (複製された異星人の輸送機と呼ばれる人間の手になる UFO に似た航空機)、および‘演出技法’が巧妙に使用され、ET コンタクト事象が捏造されたことを立証した。

実際に、FOIA (情報公開法) により我々に開放された CIA 文書 (複数) は、心理作戦目的で UFO 問題を利用することを論じている。これらの文書は、いずれも本著者による ‘Extraterrestrial Contact: The Evidence and Implications (地球外接触：証拠と意味)’ と ‘Disclosure (公開)’ に含まれている。

1950 年代初期のウィルバート・スミスによるカナダ最高機密文書は、米国政府において UFO 問題は、水爆の開発を巡る秘密をさえも凌ぐ、最高機密の主題であると説明している。これらの事実を考えると、人々の間に広まっている恐ろしい話のすべてを真実として受け入れ、そのような風説に基づきこれやあれやの ET 種族に関して大まかで偏見に満ちた声明を出すのは、妥当だろうか？

もし我々が、結束して戦うもう一つの偽の敵を受け入れるよう巧みに操作されることを避けたければ、我々は自制し、慎重でなければならない。陰の政府の多くの上層部内者は、独立して次のことを私に語った。人々に偽情報を与え、宇宙からの脅威という偽の印象を創り出すための、協調した努力がある。それにより結局は、数兆ドル規模の宇宙兵器の建設が一般大衆により容認されるだろう。

このようなプロパガンダは新しいものではない。戦争行為にさらに深く関わろうとするどの軍事権力も、まず最初に敵を悪魔化した。ヒトラーとその手先は、ユダヤ人、同性愛者、その他を巧妙に悪魔化し、人々が‘最終解決’を従順に受け入れるようにした。このようなグループによる悪意に満ちた否定的な描写は、暴力的に扱われるべき仮想敵を生み出すのに不可欠だった。

今日、我々はある真偽の疑わしい ET グループ(複数)に向けられた、差別主義的呼称を目にする - グレイ！爬虫類種族！背の高い白色系種族！このうんざりする汚れた道を、我々は再び降りていかなければならないのか？我々が星々に向かう第一歩を歩み始めたこのときに、差別主義、偏見、よそ者嫌いの卑しむべき歴史を、我々は再び繰り返さなければならないというのか？

ノーだ。我々はそうなつてはならない。我々は自らの程度の低い恐怖を抑え、我々自身の悪魔を飼い慣らさなければならない - そして真実の目で我々を取り巻く宇宙を眺め、こう自問しなければならない： ET 生命体をこのように恐ろしげに描写することで、誰が利益を得るのか？このような陰のグループは、我々をどこに連れて行こうとしているのか？どれほど多くの情報 - それほど傲慢に事実だと言いつらされている - が、実際には憎しみと恐怖の種をまき散らすための巧妙な防諜偽情報工作なのか - こうして宇宙兵器が正当化される。

札付きたち - 莫大な集中した富と権力を享受している輩 - は、世界を結束させたがっている - だが、平和的にではない。彼らは、人類を確実に待ち受けているよき未来のために我々を結束させ、支配しようとしているのではない。そうではなく、彼らは恐怖と戦争 - 世界(複数)の間の戦争 - によって支配しようとしている。権力強化のための最後の切り札。そこでは、全人類がある ET 種族 - おそらくただ一つの - に対する統一された敵対者になるべく殺到するだろう。こうして、人々の間に燎原の火のように広がる恐怖により、最終的な地球支配を達成する。

フォン・ブラウン博士は死の床で、このような計画について警告した。彼は我々に次のように警告した。冷戦が終わると、‘ならず者国家(複数)と懸念のある国家(複数)’が現れるだろう； その次には世界的テロが続く； その後は宇宙からの脅威だ - 恐怖の最後の切り札。それにより全人類は、映画‘インデペンデンス・デイ’が表現したように、‘エイリアンを全力で蹴っ飛ばす！’ために結束する。

闇の人間による行動計画をまず理解することなしに、ある ET 行動計画について判断する術はない。何が現実で何がメモレックス(Memorex)なのか - 何が ET で何が疑似 ET 偽情報なのか、巨大な陰の政府のプロパガンダ機関である煙と鏡の大広間に侵入しない限り、我々がそれを見分けることはできない。

それは容易ではない。それには途方もない忍耐、根気、不断の努力、そして注意深さが必要だ。

しかし、そうするだけのことはある - なぜなら、そうしないと意識的にか無意識的にか、異星人政策が戦争プロパガンダ機関の片腕になってしまうからだ。

我々は、これよりも首尾よくやらなければならない。我々は恐怖と偏見を抑制し、否定的で恐怖を煽る根拠の薄弱な話や、防諜工作に根ざした固定観念の広まりを回避しなければならない。我々は、人間による UFO の秘密の背後にいる輩の、技術的および心理学的能力を十分に研究しなければならない - そして、現実と嘘を見分ける方法を学ばなければならない。

公開プロジェクト(www.DisclosureProject.org)の親組織である CSETI(地球外知性体研究センター

- www.CSETI.org)は、ETの人々との接触を行なうために、16年間にわたり世界中に調査隊を派遣してきた。我々が危害を加えられたことは、一度もない。我々が脅威を与えられたことは、一度もない。我々が恐怖を感じたことは、一度もない。数百回に及ぶ派遣に参加した数千人の人々は、これらのUFOと交流を持った - そしてそれらに搭乗した生命体とも。

このすべてを通じて我々が知ったただ一つのことは、ETの人々は我々を理解し援助したいと思っていることだった。彼らは宇宙で我々が合流するのを待っている - 平和な種族として。そのとき、そしてそうやって初めて、宇宙が大きく腕を広げ、平和で進歩した人類を受け入れる用意ができたことを我々は知るだろう - そして人類は星々の間を自由に旅するのだ。

我々の提案は、新興しているET／人類関係への建設的で慎重な取り組みについて憂慮する人々が、**惑星間関係に関する新協議会 (new Council on Inter-Planetary Relations)**を組織することである。憂慮する市民たちの協議会として、これら宇宙からの訪問者たちと平和な関係をいかにしたら最もよく促進させられるか、共に探求しようではないか。我々に合流していただけるだろうか？

スティーブン・M・グリア 医師

2006年5月2日、バージニア州アルベマール郡

(訳: 廣瀬 保雄)

UFOs: What the Government Really Knows

Exclusive Interview by Jean-Noel Bassior

published in Hustler magazine's November 2005 issue.

UFO：政府はそれを確かに知っている

ジャン・ノエル・バシオーによる独占インタビュー

ハスラー誌2005年11月号に掲載

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

*50年以上もの間、陰の政府の諸機関は、地球外知性体と
その工学技術の応用に関する情報を抑圧し続けている。*

1998年にスティーブン・M・グリア博士は、ノースカロライナ州にあるカルドウェル・メモリアル病院緊急医療長のポストを辞任した。数十年の間秘密にされ続けてきた地球外知性体との接触という、企業-政府によるある巨大な隠蔽を暴露することに専念するためだった。なぜこれが重要なのか？それは数十体に及ぶ異星人の遺体が、アリゾナ州フアチュカ基地に隠されているためではない、そうグリアは述べる。それは彼の補佐と二人の同僚の命を奪い、彼自身も殺されかけた極秘の電子工学技術のためでもない。またそれは、南西部の友好の空を実際の ET 宇宙機と見分けがつかないほどよく似た UFO 試作機が徘徊しているためでもない。(あなたの税金がこれに使われている)

グリアは次のように強調する。重要なのは、もし政府が ET の工学技術について知っていることをすべて明らかにしたなら、この地球をもっと住みやすくすることができるということなのだ。石油や他の化石燃料への依存から脱却するだけでなく、原子力を廃棄し、クリーンで廉価で安全なエネルギーに移行できる。それはどの国、どの文化圏でも利用可能なものだ。一つ問題がある：それは我々の燃料とエネルギーシステムを支配し、兵器を大量生産し、世界経済に君臨し続ける企業-政府の権力構造を弱体化または転覆させるかも知れないということだ。だから、戦争を引き起こす一方で欠乏を助長し、ガソリンの値段を天井知らずに押し上げる、闇の連合を明かりで照らし出すにはどうしたらよいか？

バージニア州クローゼットに本拠を構えるグリアの公開プロジェクト(ディスクロージャー・プロジェクト)は、秘密保持契約を無視するようにと、軍の幹部、CIA 職員を含む数百人の事情通を説得してきた。彼らは文書(その幾つかはまだ機密扱いだ)を暴露し、証言書に署名した。グリアはその全部を持っている -- 実際、今春(2005年2月24日)に放映された UFO に関する ABC 報道特集のために、彼はこの驚くべき事実をピーター・ジェニングスのプロデューサーに提供した。だが、この名医が知ったように、我々はこのような事柄を主流メディアに提供し、ゴールデンアワーにそれが放映されると期待することはできない。“彼らは我々にそうさせたくなかった”ある上級プロデューサーは電話でグリアにそう語った。グリアはこのように回想する。“私は‘それは誰ですか’と訊いた。したら彼は‘グリア博士、あなたは彼らが誰かご存じだ’と言い、カチッと音がして電話が切れた”

それなら、これらの文書を合衆国大統領に渡したらどうなのか？それはそこに行ったし、それはなされたのだ。グリアによれば、クリントン夫妻の親しい友人は“ヒラリーとビルは何時間もかけてそれら

を熟読した”と語り、次のように付け加えた。クリントンが政権に就いたとき、二つの疑問に対する答を求めた：誰がジャック・ケネディを暗殺したのか？UFO に関して何が進行しているのか？グリアの友人は、クリントンが次のことを悟るのに長くかからなかったと語った：もし彼(ケネディ)が自身の“訊くな、話すな”の方針に従っていたなら、任期を全うするチャンスはもっとあった。

2001年にグリアは記者会見を開いた。その場には多くの証人たちが名乗り出たが、それは9/11で霞んでしまった。あの後も彼は、政府が明らかにしたくないことを進んで暴露しようとする事情通たちを、さらに集めている。だから、もしあなたがサウジアラビア国民と手を握り合うことが嫌になるか、UFOに我々の攻撃を(大抵の場合)素早くかわせる性能を与える、素晴らしい反重力工学技術を地球人も入手するときだと考えるなら、公開プロジェクト DisclosureProject.org をよく調べて欲しい。

“ことはあなたの財布の問題なのだ、小さな緑の小人のことではない”グリアはそう語る。彼はETたちにより利用されている進んだエネルギーシステムで、化石燃料と原子力を置き換えることを望んでいる。どこでそれが手に入るか？グリアの返事はこうだ。“政府に訊け。彼らはそれを50年間持っている”

ワシントンは聞きたくないかもしれないが、我々は本当にそれを聞きたい。

ハスラー：あなたが最初に UFO を見たのはいつですか？

スティーブン・M・グリア博士：1960年代初期に遡ります。私が8歳か9歳のときでした。私は何人かの近所の男の子たちと、無音で空中静止している円盤形の、窓のない物体を見たのです。それはただそのまま消えました。私の両親は“よかったね”と言い、気にすることはありませんでした。でも私は自分が見たものが何であるかを知っていましたし、それは私の人生を変えるものでした。

あなたに医師を辞め、UFO 隠蔽問題に専念するようにさせたものは何でしたか？

1990年に、私はNATO(北大西洋条約機構)とベルギー空軍が巨大な三角形航空機 - 直径約800フィート - を追跡していたことを知りました。それが私の関心を再燃させたのです。私はそこに行き、F-16戦闘機が記録した巨大UFOが空中静止しているレーダーテープを実際に見たのです。次にそれは毎時数千マイルの速度に加速しました -- 人間が造ったどんな物体がなし得る限界をも超えていました。

あなたは接近した距離で UFO を見たことがありますか？

私は私の調査チームとともに、私たちの車の真上に降下してきた巨大な三角形物体の一つを見ました。それは上部で振動しており、巨大な変圧器のような音を発していました - 太い低周波のブーンという音でした。私たちが見た中で最も劇的なものは、英国で起きたほとんど着陸に近いものでした。1992年のことです。それは直径100フィートの円盤で、私たちの正面、地上約10フィートにあり、信号を発し交信していました。それに搭乗した人々が見えました。

あなたのチームは ET 宇宙機との接触を確証したことがありますか？

1990 年代初期に、一人の BBC 記録班員が[UFO からの]一連のビーブ音を捕捉しました。私たちはそれを録音し、外に向けて再び返しました。ことによると、それは彼らのゴミ圧縮機だったのかも知れませんが、人間たちがその信号を返しているのを彼らが見たなら、彼らはそれを交信と見るかも知れないと私たちは考えました。フロリダ州ペンサコーラで、私たちは高出力のライトとレーザーで[1 機の UFO に]信号を送りました -- そしたら彼らは私たちに信号を返したのです！私たちはこれをビデオテープに撮っています。私たちはこれらの物体が目撃されている場所に行きます；ですから、私たちは自分の裏庭にいるだけではないのです。

UFO に敵意はありますか？

これらの UFO またはその背後にいる生命体たちが、私たちに脅威を与えたり敵意を示したりした証拠は、少しもありません。いくつかの軍の無法プロジェクトが、愚かで危険なことをしてきた証拠がたくさんあります。それは彼ら(ET)に向けられた攻撃行為でした。

政府は ET の輸送機と遺体を秘密にしてみましたか？

彼らは数十機の地球外輸送機と様々な種族の多数の[ET の]遺体を持っています。その幾つかは、アリゾナ州フアチュカ基地に近いある地下施設に保存されています。

秘密計画は ET の技術を開発していますか？

そうです。私たちは多数の証人の証言により、UFO の背後にあるエネルギーと推進システムを研究し解明してきた秘密計画があることを証明できます。私たちが語っているのは、人類が“量子真空”と呼ばれるものからエネルギーを発生することを可能にする、全く新しいタイプの物理学なのです。

そのエネルギーの仕組みはどういうものですか？

基底レベルのエネルギーというものがあり、それは私たちを取り巻くすべての空間にあります -- 宇宙空間ではなく、この部屋の中の空間です。推定では、ここにある 1 立方センチメートルの空間に、全地球を 1 日賄うための十分なエネルギーが含まれています。これは引き出して利用することが可能です。一部の科学者たちは、量子真空からエネルギーを抽出するモーターを造り出そうと試みています。これは私たちを取り巻いて存在するエネルギーです。

あなたは原子と原子の間にある空間のことを言っているのですか？

そのとおりです。“ゼロポイント・エネルギー”です。私は実際にこれら[の装置]が作動しているのを見たことがあります。当然、その発明家は脅迫されてきました。ユージン・マローブ博士、彼は[2004 年]5 月に命を奪われましたが、彼と私はこれに取り組んでいました。私はそれを進展させていますが、危険な行為です。[マローブ博士と常温核融合技術の詳細は PureEnergySystems.com で調べて欲しい]

このエネルギーの利用に私たちはどれくらい近づいていますか？

私たちはかなり近づいています。“原理の証明”を行なっている人々にはいますが、販売用製品はまだ一つもありません。現在私たちは、この量子真空から数百ワット規模でエネルギーを発生させている一人の発明家とともに取り組んでいます -- 私たちの家庭の幾つかの器具にとっては十分です。私たちはまた、ある種の制御実験で高電圧システムの反重力効果を実証することもできます。

ある電気場は重量をかなり減少させるのです。私たちはとても進んだ反重力研究を成し遂げている人物とともに取り組んでいます。それを機密にした大佐は、これを進展させるために進んで私たちにそれを公開しようとしています。

あなたは物体の重量を消滅させたのですか？

これが実験室で行なわれたのを、私は見ました。このエネルギーを取り出す技術は、無法な闇の計画の中ではすでに完全に開発されています。ロッキード・スカンワークスは、高速で飛び回る反重力[推進]の巨船(複数)を持っています。カリフォルニアやユタ州の高地砂漠で目撃される UFO の多くは、実際には人間が造った試作機です。

これらの偽物 UFO を他に誰が造っていますか？

関与している企業は SAIC[Science Applications International Corporation], ティー・アール・ダブリュー (TRW), ノースロップ (Northrop), レイセオン (Raytheon), およびイー・ジー・アンド・ジー (EG&G) です。これについて私たちは大量の情報を持っています。これが行なわれている建物(複数)を私は知っています。人々が真実を知るために、これは明らかになる必要があります。

これらの秘密計画に私たちの税金が使われていますか、それともそれは民間資金ですか？

両方です。いわゆる“闇の予算”とともに、民間の、企業による資金があります。私は 1994 年にロバート・C・バード上院議員のスタッフに会いました。彼の上級捜査官と当時彼が議長をしていた上院歳出委員会の主席弁護士は、これは現実のことだと私に語りました。[しかしこうも言いました]彼らは UFO を扱っているこの闇の世界に侵入することができませんでした。その当方で年間 400 億から 1000 億ドルが、これらのプロジェクトに流れていました。彼らはその資金の行方を追跡できなかったのです。

これらの計画が秘密にされているのはなぜですか？

量子真空または“ゼロポイント”エネルギー場から、とても洗練された方法でエネルギーを抽出するこれらの工学技術により、化石燃料と原子力の産業が不要になるだろうからです。化石燃料と従来型輸送に関連する分野は、世界経済の中で 7 兆ドルを占めます。もしこの情報が明るみに出たなら、人々は - 私たちが宇宙で孤独ではないと知るとはさておいても - 石油、石炭、集中的な施設などが不要であることを直ちに知るでしょう。それはすべて、世界のマクロ経済と権力力学の恒常

性と現体制を維持することに関係しています。

ゼロポイント・エネルギーは世界経済をどのように転換させていくのでしょうか？

それにより、あらゆるものが置き換わるでしょう。あなたは石油を必要としなくなりますが、年間 30 兆ドルの世界経済は、短時間で 200 兆ドルに成長するでしょう。なぜなら、クリーンで持続可能なエネルギーがそこにあり、製造業と輸送は非常に低コストになるからです。世界人口の 80 パーセントは驚くべき貧困の中で生きています。ゼロポイント・エネルギーはそれを解決するでしょう。それはこの惑星に大変革をもたらすでしょう。人々は“平和の配当”について語りますが、今や“空間の配当”の時代です。

誰がこれらの進歩した工学技術を人々から隠しているのですか？

これを実行している組織は、世界最大の RICO[Racketeer Influenced and Corrupt Organization; 違法行為に身を染めた堕落した組織]です。彼らはかつて MJ-12(Majestic; マジェスティック)と呼ばれていました。しかし、私が最後に聞いた名前は PI-40 です。それは単一の組織ではありません。メーソン(Masons)、ビルダーバーガー(Bilderbergers)、三極委員会(Trilateral Commission)、および外交問題評議会(Council of Foreign Relations; CFR)について、巷間言われている陰謀説があります。私はこれら全部の組織の人々を知っていますが、彼らの大部分は何も知りません。それはもっと平凡なもので、考えられている意味合いは実態と異なります。

どうして彼らは恐れているのですか？

それは権力を分散させるでしょう。現在、集権化された石油と金融システムは、世界の動きと一体化しています。私たちは、彼らの行動計画が何であるかについて、その内部にいた人々の証言を得ています。

この闇のグループには誰がいるのですか？

この問題についての方針を決定する 200 から 300 人の委員会があります。ボビー・レイ・インマン提督は、国家安全保障局(NSA)から SAIC - この闇の組織の重要資産 - の役員に転身しましたが、彼はそのメンバーの一人です。ハリー・トレイン提督もそうです。ジョージ・ブッシュ・シニア、チェイニー、およびラムズフェルドが、リヒテンシュタイン銀行一族と同様に参与しています。モルモン企業帝国は、この主題に莫大な利害を持っています；彼らはホワイトハウスやペンタゴンよりも、この問題に関しては強い権力を持っています。そして、パチカン内部にも秘密の下部組織(複数)があります。

あなたはこれらの人々の誰かと会ったことがありますか？

このグループ内部には派閥があり、私はその“好人物”の何人かと会いました。人々はそれが完全に統制された陰謀だと考えていますが、それは間違いです。これらの秘密プロジェクトに参与している人々の 40 パーセントから 50 パーセントは、このことを明るみに出したいと望んでいます。彼ら

は私たちが石油を使い尽くしつつあること、中国が工業化しつつあること、また極地方の氷床が融けつつあることを知っています。彼らは、もしこれ[進歩した ET の工学技術]が今日公表されても、経済的、戦略的、地政学的な大惨事、および環境の激変を回避するためにそれを広範囲に応用するには、10 から 20 年かかるだろうということを知っています。彼らはそれを理解しており、状況を改善したいと思っています。しかし、彼らはまだ少数派です。彼らはより進歩的ですが、組織を支配しているのは非情な輩です。

CIA 長官のウィリアム・コルビーはいつかの時点で関与していましたか？1996 年の彼の“事故”死はあなたの仕事と関係がありましたか？

ビル・コルビーは極秘グループから離脱しようとし、暗殺されました。というのは、彼は工学技術 - 作動する装置 - の幾つかと 5000 万ドルの資金を、私たちに移転しようとしていたからです。私はいわば私の意志力と人間関係を使って、それを世界に向けて公開していたでしょう。彼はそれを知っていました。彼は私の最も親しい友人に会おうとしていた週に、ポトマック川に浮かんで発見されました。彼は見せしめにされたのです。

実際に、コルビーの親友でこの会合を準備したある大佐は、それは間違いなく狙撃だったと言いました。彼の妻でさえ、CNN でこう述べました。“それは奇妙だわ、そうでしょう。だって、彼は雨で増水したポトマック川で夜中にカヌーを漕ぐような人じゃないし、しかも家を開けっ放しにしてコーヒーメーカーとコンピュータをつけたままなんて。まったくビル・コルビーらしくありません”

コルビーの未亡人はそれを殺人と呼ぶのを思い止まりましたね。

こう言った人がいるかもしれません。“逆らうな、そうしないと次はあなたの子供たちだ” つまり、これらの輩は残忍な悪党です。

あなたは命を脅かされたことがありますか？

コルビーが殺された[頃に]、私の右腕だった補佐、私たちとともにとても親しく活動していた一人の国会議員、そして私自身が、全員同じ口の中に致死性の癌を患いました -- 種類は違いましたが、私はこのことをあまり公にしています。というのは、人々はこう言うからです。“まさか！”しかし、それは間違いなく起こすことができるし、起こされたのです。私以外の人たちは死にました。私は打ちのめされ、再び立ち上がるのに 18 ヶ月かかりました。

あなたは UFO 隠蔽陰謀グループが、遠くから人々を標的にし、癌を生じさせることができると言っているのですか？

そうです。スカラー電磁気兵器システムに関するトム・ビーデン博士の本(複数)が、縦波の波形がいかにしてこの種の作用を伝達する媒体になり得るかを説明しています。彼らはそれを一つの細胞、あなたの DNA まで送り込むことができます。それはすべて共鳴現象です。私たち(人類)は、この技術を 1950 年代から持っています。

あなたには、この巨大な隠蔽について知っていることを暴露するために名乗り出る意志を持つ証人がいますか？

私たちには、これらのエネルギーと推進システムの研究を含む、確かに否定できない事象が起きていたときにそこにいた、約 450 人の軍と政府の“部内者”たちがいます。

***** (囲み記事) *****

証人たちの証言の要約 - “現代史における最大の秘密” (Witness Testimony Overview - “The Greatest Secret in Modern History”) - 公開: 軍と政府の証人たちが現代史における最大の秘密を暴露 (Disclosure: Military and Government Witnesses Reveal the Greatest Secrets in Modern History by Steven M. Greer, MD) より抜粋

あなたは文書(複数)を持っていますか？

私たちは動かぬ証拠の文書を数多く持っています。その中には死の前日に盗聴されたマリリン・モンローの記録があります。それはこれまで一度も機密解除されたことはありません。彼女は、ジャック・ケネディが睦言の中で彼女に語ったことを世界中に伝えるために、記者会見を開く恐れがありました。それはケネディが、文書の中で“秘密の空中基地”と言及されている場所にあった、ある地球外輸送機に由来する破片を見たことがある、という内容でした。彼女はこのために殺されたのです。

どうして主要メディアはこれを報道していないのですか？

最大の問題は、メディアです。もし国会議員がこれに首を突っ込み始めたら、彼らはメディアからやり玉に上げられ、馬鹿にされます。1991 年の CIA 文書がありますが、それには話を抹殺し、拵え、止めさせるために、この機関がすべての主要メディアの報道局に接触者または手段を持っていたとはっきり述べられています。私たちに自由な報道機関があるというのは嘘です。そして、人々はそれを理解することができません。ボストン・グローブ紙のかつての編集者が私に言いました。“これは全くあまりにも現実離れしている。それが本当だとしても、我々は決してそれを掲載しないだろう。なぜなら、それはタブロイドや過激派を連想させるからだ”

それなのに、これらの人々は私が言うところの“世界中から聞こえてくるフェラチオ (blowjob)”を四六時中報道しています。ハスラー誌もそれは同じです。メディアは O・J・シンプソンやマイケル・ジャクソン裁判のような、見世物を報道するための衛星軌道や現場リポーターたちに、数百万ドルを使おうとします。

UFO 問題はなぜそれほど緊急事なのですか？

それは私たちの生活がどうなるかに関係しています。環境を浄化するほかに、それ[ET の工学技術]は石油への依存から私たちを自由にし、それは私たちを中東の混乱から抜け出させ、米国の平均家庭の暖房、公共料金、車のガソリン代を年間何千ドルも節約します。そして、世界的に見れば莫大な潜在的経済力を解放します。これはすべての船を持ち上げるうねりになるでしょう。

これほど大きな主流の抵抗を前にして、あなたはどのように前進し続けるつもりですか？

これはいわばプロメテウスの挑戦です。ローランス・ロックフェラーがあるとき私に言いました。“君がこれをやろうとしているのは素晴らしいことだし、重要なことだ。しかし君が宮廷の道化師になるのを私は心配している。人々はそれを真面目に受け取らないだろう”それで私はこう言いました。“ええ、でも私たちは少なくともやってみるべきです”

あなたはこの情報をどのようにして公表するつもりですか？

私たちは二つの分野を推し進めています。一つは SEAS[Space Energy Access Systems, Inc.;宇宙エネルギー利用システムズ有限責任会社]を通じた工学技術です。これは私たちが行なっている工学技術と研究のための会社という側面です。二つ目は、次の段階 - さらに大規模な報道機関とメディアを前にした、とりわけ先進的工学技術に関わった新しい証人たち - に向けた資金支援を見つけることです。

訳者注記: SEAS は存在しない。2007 年 7 月に AERO, Inc. (先進エネルギー研究機関)が新たに設立された。

これまで制限要因は資金難でした。もし私がエイリアンにレイプされたと主張していたなら、数百万ドルの映画契約を得ていたでしょう。何か真面目なことをしようとすると、ほとんどお金は得られません。彼らは道徳について語り、誰が誰と[セックスしたか]を語ります。しかし、本当の道徳は、これらの諸問題を心配することです。

私たちを訪問している地球外知性体は何を望んでいますか？

彼らは私たちが成長し、地球の破壊とお互い同士の殺し合いを止めることを望んでいる、私はそう思います。それが惑星間クラブに参加する必要条件でしょう。そして私たちはまだそこに至っていません。それが人類にとっての最大の課題です。

あなたは将来に希望を持っていますか？

私はとても希望を持っています。実際、私は結末は平和的なもので、これらの工学技術は地球の運命と環境を完全に修復し、貧困を解消するだろうと信じて疑いません。それは私たちの生涯のうちに起きるでしょう。ただし問題は、そのときまでにどれほどの狂気が続かなければならないか？ということなのです。

ジャン・ノエル・バシヨーはRedbook, Parade その他の出版物に寄稿してきた。彼女が書いたSFファン生涯の愛読書 ‘Space Patrol: Missions of Daring in the Name of Early Television’ は、最近McFarland 社から出版された。

(訳: 廣瀬 保雄)

ABC NEWS DEFRAUDING: INSIDE THE ABC NEWS UFO DOCUMENTARY HOAX

Dr. Steven M. Greer.
Director, The Disclosure Project
March 2005 - revised August 8, 2005

<http://www.disclosureproject.org>

Copyright 2005

欺いたABCニュース： ABCニュースUFOドキュメンタリーの内幕

スティーブン・M・グリア博士
公開プロジェクト責任者
2005年3月 - 2005年8月8日改訂

<http://www.disclosureproject.org>

著作権 2005年

([公開プロジェクトのウェブサイトより](http://www.disclosureproject.org))

注記: 本文は全文掲載または正確な抄録に限り, 広く転載, 配布することを許可する.

もちろん, その番組のタイトルは‘UFO - 見ることは信じること’だった. これは, いかにもして墮落した大手メディアがまたしてもアメリカ国民を欺いたか, その一部始終を最前列の席で見ている者からの報告である.

2004年の夏, 公開プロジェクト(ディスクロージャー・プロジェクト)の創始者であり責任者である私に, プロデューサーのジョーダン・クロニックから申し入れがあった. 彼は, ABCニュースがUFO問題について真面目な紹介を行なうことで, 歴史に残ることをするつもりであると説明した - 全国ネットのニュースでは初めてということだった.

最初は疑念を抱いた - 我々は以前このような大袈裟で胡散臭い話を見たり聞いたりしていた - が, 私はワシントン DC にある我々のオフィスでクロニックと会うことに同意した. 数時間にわたり, 我々はそのテーマについて議論し, 公開プロジェクトがいかにもして軍と政府の数百人に上る UFO 事象とプロジェクトの最高機密目撃証人たちを確認してきたかを論じた.

クロニックは大きな関心を示し, これこそ彼とチーフプロデューサーのマーク・オーベンハウスが求めているものだと, 何度も明言した. 私はABCニュースに進んで協力するために, 無料で公開プロジェクトのすべてのデジタルビデオテープ・インタビューとすべての目撃証人たちへの接触情報を提供することを申し出た - その中には我々がまだテープに撮っていない人々も含まれていた.

ここで読者は, 次のことを知る必要がある. つまり, これらは夜話を匿名で語る, 曖昧な暗闇の密告

者ではないということである。これらの人々は、過去 14 年間に我々によって確認されてきた、数百人の軍、政府、および企業の部内者たちである。彼らは将軍から宇宙飛行士、FAA(連邦航空局)高官にまで及び、UFO に関係した事象、プロジェクト、隠蔽の内情に通じていた。それに加え、我々には数千ページに及ぶ疑う余地のない動かぬ証拠の政府公式文書、物理的証拠、写真、ビデオ、着陸痕跡事象、その他の明白な証拠物がある。

ABC ニュースの制作チームは、まさにこの種の証拠 - 特に、数十年間の秘密を確実に暴露することができる政府と軍の高い地位にある内部告発者 - を求めていると主張した。

ABC は、2 時間のニュース特別番組として、この目的を達成するのに必要な焦点と厳密さをこの主題にやっとならせることができると断言した。

しかし、議論が続くにつれて益々明らかになっていったのは、オーベンハウスが本当に望んでいたのは一種の三面記事的番組 - 裏付けの乏しい市民の証人、街頭インタビュー、そして UFO 研究なるものの大部分を取り巻く、一般的な夏枯れ時のお祭り気分といった雰囲気を含むものだった。

我々は、2004 年 8 月に行なわれた CSETI(Center for the Study of Extraterrestrial Intelligence; 地球外知性体研究センター)のシヤスタ山調査旅行を撮影することに協力した。このとき、我々はこのプロジェクトの責任者である上級プロデューサーのオーベンハウスと議論する機会を持った。

オーベンハウスは我々に、次のことを確信していると口にした。つまり、問題は実際には秘密にされていたのではなく、政府側の計画の継続、怠惰、等々のために、ただ‘放っておかれてきた’のだと！我々には信じられなかった。彼に渡されたデータや証拠を彼が調査していないこと、また彼が真実の紹介または調査プロジェクトではなく、‘軽い’興味本位の番組を制作しようとしていたことは明らかだった。

このことは、後になってははっきりした。夏から秋になり、彼らが行なうと主張した長い約束である、政府の最高機密目撃証人たちへの真面目な調査とインタビューは、これらの高い地位にある決定的目撃証人たちと行なわれることになっていた。彼らはそれを一度もしなかった。

その代わりに、最終的な ABC ニュース番組は、UFO を扱う大抵のタブロイド・ケーブルテレビの番組よりも、証拠において弱かった - ‘ドキュメンタリー’の大半が UFO 有名人、暴露者、およびロズウェルのような UFO 人気スポットについてのお祭り気分を伴うものだった。

彼らは、欺瞞的にも懐疑派と‘信じる派’を登場させ、‘バランスがとれている’ように見せかけた - その中では明らかに懐疑派は‘真の科学者’であり、‘信じる派’は見当違いの変わり者だと暗示されていた。ABC ニュースはメディアの‘客観性’という計略を用い、たとえばエイリアンに性的暴行を受けたと思込んでいる一人の市民と対置させて一人のハーバードの懐疑派科学者を登場させるという、不釣り合いなことをしようとした！

パイロットと軍関係者への非常に少ない簡単なインタビューは、この問題全体を馬鹿にする科学者たちの長時間の場面に混ぜ込まれた、UFO サブカルチャーの誤った、お祭り気分を伴う疑似民族

誌学に圧倒されていた。

一般視聴者に対して客観的で‘バランスがとれている’ように見せかけてはいたが、そのプロジェクトは、むしろ見せかけだけ客観的であるように注意深く拵えられた、偽情報工作番組だった。

そうでなければ、なぜあれ程の長い放送時間を UFO 有名人、メディア関係者、その他の似たような人々へのインタビューにあてたのか？ - 我々から彼らに直接提供された軍、政府、科学界の高い地位にある目撃証人たちと証拠のすべてを完全に除外する一方で。

我々が直接彼らに提供した資料の範囲と内容を考えれば、なぜそのすべてが除外されることになったのか、理解できない - 最初から彼らが偽情報と隠蔽の番組を意図していたのでない限り。

またなぜ ABC ニュースは、ブルーブック計画が閉じられた 1969 年以来、米国政府は UFO 問題から手を引いていると述べようとしたのか？ 彼と彼のチームには、それとは反対に米国政府の公式文書、政府高官の内部告発証言、および物理的証拠 - レーダーテープも含まれている - が直接我々から提供されたのだ。なぜ ABC ニュースは、‘どこに物理的証拠がありますか？’と修辭的質問をする無知な科学者たちを主役に据えようとしたのか？ 十分な物理的証拠が入手可能で、しかも彼に提供されたにもかかわらず。

本当に、なぜなのか。我々は 1991 年のある CIA 文書を受け取ったが、それには話を変え、潰し、情報操作するために、CIA が大手メディアに接触者を持っているとはっきり述べられている。1991 年 12 月 20 日付、1992 年 4 月 1 日に CIA の開放性強化調査特別委員会 (Task Force on Greater CIA Openness) から CIA 長官に報告されたこの文書 6 ページ目の引用：

“現在 PAO[the Public Affairs Office; 広報課]は、国内の主要なあらゆる通信社、新聞社、週刊誌、およびテレビネットワークの記者たちと関係を持っている。このお陰で、我々はいくつかの諜報活動上の失敗談を成功談に変えてきた... 多くの場合、我々は記者たちを説得し、話を引き延ばしたり、変えたり、差し止めたり、破棄することまでしてきた...”

そして我々は、UFO についての心理作戦効果に関するある CIA 文書の中に、現在は ABC の親企業になっているディズニースタジオが、心理作戦目的でこの主題を漫画的に描写する一つの情報源として使われている、と言及されている部分を見出す。

ABC ニュースが再びアメリカ国民を欺いたことは、驚くべきことか？ - 彼らはただニュースと真実の調査を報道するふりをしながら、実際は信じやすい国民に偽情報を流している。

オーベンハウスは、調査や事実の根拠なしに、政府-企業の複合体は新しいエネルギー、推進技術、および関連する工学技術(複数)を国民の目から秘密にしていない、そう直接私に断言することまででした！この問題についての彼の偏見は、根深く揺るぎないものだった：事実なんか忘れろ、自分の心は決まっている。

このプロジェクトの上級プロデューサーが、何ら調査や研究もせずに、最初からこのような狭量な結

論を支持するなら、ABC ニュースの主張が真面目な紹介や調査報告をすることだと認めるのは困難である。

私を知る人々は、私が確信を持ち、断固たる事実を提示し、これらの新しい工学技術の知識の恩恵を受けて進歩した持続可能な文明が地球に生まれる展望を示したいと思っていることを知っている。しかし、今やアメリカ国民は、大手メディアとその所有者たちこそが、真実が明るみになることを妨害している中心問題である、という事実が目覚める時だ。かつてのタイムワナー役員が私に語ったように、大手メディアは王様の腹心の口述筆記をするだけの書記官になり下がった - そして、ジャーナリズムは本質的に死んだ。

行動要請

アメリカ国民は、ABCニュースがその欺瞞的主張を正し - 公開プロジェクトや他の研究者たちが確認している重大な証拠、政府文書、勇気ある軍の内部告発証言について真実の調査報告を行なうよう要求すべきである。読者はこの証拠の多くを www.DisclosureProject.org から入手することができる。

ABC ニュースに手紙を書き、誠意ある調査報告を要求して欲しい:

abc.news.magazines@abc.com

support@ABCNews.go.com

それに加え、どうか FCC(連邦通信委員会)に連絡し、ABC ニュースがアメリカ国民に対して犯した明白な詐欺行為に関し、あなたの苦情を登録して欲しい。思い出して欲しい: ABC ニュースは、放送ネットワークとして FCC により公共電波の権利を与えられている。それと引き換えに、我々には他のネットワークと同様に ABC ニュースに対して、公正さ、正確さ、および誠実さを守らせる権利がある - 見え透いた詐欺行為と墮落を避けることももちろんである。アメリカ国民に対してこのイカサマ報告を実行したのは、ABC の娯楽部門ではなくそのニュース部門だった。彼らがこれほど重要な 2 時間報道から、信用できる証拠と政府部内目撃証人の殆どすべてを削除したのだから、我々は直ちに FCC による公聴会を要求する必要がある。誰がオーベンハウスとピーター・ジェニングスに、この重要な証拠を隠蔽するよう促したのか?なぜ? ABC ニュースは、この問題について知らなかったと言い張ることはできない。なぜなら、彼らには膨大な証言と証拠が直接提供されたからである。これらのどれも番組では使われなかった。

FCC(連邦通信委員会) www.fcc.gov/cgb/complaints.html に連絡し、この問題について直ちに調査を行なうよう要求するとともに、FCCがABCにその虚偽の陳述を引っ込めさせ、彼らが持っているアメリカ国民から隠している証拠を提示させるよう要求して欲しい。

そして最後に、あなたにできるあらゆる方法で、公開(ディスクロージャー)を支援して欲しい。我々が真実を世に出すことに力を貸して欲しい。人々に <http://www.DisclosureProject.org> を伝えて欲しい。そこにはこの重要な問題についての真実がある。我々が新しい - そして誠意ある - 報道機関を立ち上げることを援助する後援者たちを見つけることに力を貸して欲しい。それは人々から不

法に隠されている, これらのことや関係するプロジェクト(複数)を誠実に報道する機関である. 政府と企業の広範な墮落について真実の調査報告を作成し報道するニュースネットワーク - 公開ネットワーク(The Disclosure Network) - 我々は今, それを始める時ではないだろうか?もし我々が民主主義を回復擁護し, 石油と原子力を置き換えることにより我々に持続可能で平和な世界をもたらすことができる, 今は隠され抑圧されている工学技術(複数)を公開しようとするなら, 現在大手メディアの共謀により完全に隠されたままになっている諸問題は, 人々に知られる必要がある.

我々は最早, これを行なうのに ABC ニュース, あるいは他の大手メディアを信用することはできない. 我ら人民は, 真実を明るみに出す仕事を引き受けなければならない - そして, 我々の民主主義と惑星のうちから残されているものを救い出さなければならない. 大手メディア, それは彼らの所有者たちのためのサクラになり果て, 真実を語る能力も意思も失った. 彼らに代わり, 我々がそれを行なう時である.

スティーブン・M・グリア

責任者であり創始者

公開プロジェクト

バージニア州アルベマール郡

2005年3月

2005年8月更新

<http://www.DisclosureProject.org>

(訳: 廣瀬 保雄)

MEDIA PLAY

by Steven M. Greer M.D.
Director, The Disclosure Project
<http://www.disclosureproject.org>

Copyright 2004

メディアの真相

執筆：スティーブン・M・グリア 医師
ディスクロージャー・プロジェクト責任者
<http://www.disclosureproject.org>
著作権 2004年

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

社会通念 (Conventional Wisdom) では、我々は自由な報道機関を持つ自由で開かれた社会に住んでいる。そこでは、政府の秘密と不正に対し、報道機関が重要な抑制と均衡の役割を果たす。騙されやすい国民に押しつけられているこのような幻想 (複数) は、暴走する不法な秘密プロジェクトが殺人を犯したまま逃亡することを許してきた。そして、それらは今や惑星殺し (planeticide) - 惑星全体の死滅 - をしようとしている。

真実を言うなら、我々には自由なメディアがある - それを取るに足りないものである限り。つまり、それが重要さの臨界量に達しない、ある影響力の範囲内で行使される限り、報道の自由はある。それとおおり、あなたは何でも言ったり書いたりできる - その内容が一般大衆の前に正直に掲載されるのでない限り。ジャーナリズム (Fourth Estate) に仕え、油断なく人民 (People) の利益を守る自由な報道機関。この古風で趣のある概念は、政府により、また企業メディア自身により演じられている、大嘘の一つである。事情通の誰もが、これが嘘であることを知っている。

大手メディア (Big Media) はメディア一般と区別される必要がある。その意味は、前者は完全に墮落しており、後者は限定された影響力と重要さの範囲内に閉じ込められているということである。量販メディア - 毎夜放送のニュース、CNN、ニューヨーク・タイムズ、ワシントン・ポスト、ニューズウィーク、タイム、等々は、本当に重要な事柄については常に多くの第三世界諸国のメディアよりも - あるいは実に共産中国よりも - 自由がない。

我々はそれを知っている。なぜなら、我々はそのシステムにベータテストを行なったからだ。(これについては後でさらに述べる)

この墮落がもたらす影響の大きさははかり知れない。今日の世界にあつて、墮落し、レベルが低下し、管理された大手メディアは、重要な調査が抹殺され、不法な秘密が存続し、科学上の重大な飛躍が抑圧されている主たる原因である。

大手メディアの協力、服従、墮落なしに、世界を焼き焦がし続けている闇の計画(複数)がその力を維持できるはずがない。実のところ、最近ある国会議員から、いかにしてこれらの不法活動が存続し、勢力を保っているのかと訊ねられたとき、私は彼にこう言わざるを得なかった：それは**大手メディア**が彼らにフリーパスを与えているのが第一の原因だと。

何年前か、ニューヨーク市で持たれたローランス・ロックフェラーと少数の地元有力者たちとの会で、かつてタイムライフ(それ以前はタイムワナー、AOL タイムワナー、等々)の役員だった著名ジャーナリストのボブ・シュワルツが、私にきっぱりとこう言った：**大手メディア**は、自由な報道機関、**ジャーナリズム**として実際に機能する代わりに、“... 王様の腹心の口述筆記をするだけの書記官になり下がった...” さらに彼は、次のように述べた。彼は友人である CBS シックスティミニッツ(60 Minutes)のマイク・ウォリスに UFO に関する多数の政府文書を渡し、ウォリス氏はその情報を追求したいと思った。しかし、‘あるところ’からの圧力のために、結局はそれを断念した。

さて、**大手メディア**はあなたにこう言うだろう：UFO 問題は終わった；空軍は UFO を調査し、基本的に研究すべきものは何もないと述べたコンドン委員会の報告をもって、ブルック計画を終了した。これは**大嘘(Big Lies)**の一つであり、そうであることは証明できる。しかし、米国内のどの**大手メディア**の報道局も、この方針を固守している。それとは反対に圧倒的証拠があり - そして、コンドン博士自身がその研究を墮落させ、この問題を秘密にし続けている闇のプロジェクトの職員名簿に名を連ねていたことを今や我々は証明できる、という事実があるにもかかわらず！

それが真実の調査報告、政府の秘密、あるいは**大手石油企業(Big Oil)**に取って代わる可能性があるエネルギーと推進システムを扱う重大な工学技術上の飛躍のこととなると、本質的に米国には何らかの影響力を持つ自由な報道機関は一つもない。**大手メディア**は闇の利害と墮落した影響力を持つ、巨大な企業-準政府的組織に縦横に組み込まれている。米国の主要メディアは少しも自由ではないし、数十年間そうであったことはない。

1990 年代終わりに、私はワシントン・ポストの一人の上級記者と会った。彼は政府、軍、および安全保障問題を担当していたが、多くの問題について相当に衝撃的なファイル(複数)を公表せずに抑えていると私に語った(ヒント：我々は活動中の秘密の地下施設とある種の遺伝実験について話し合っていた)。その情報をいつ報道するつもりかと私が訊いたとき、彼は目配せしてこう言った。“おお、グリア博士、ご存じのとおり、ワシントン・ポストには重要な情報はこれまで一つも掲載されたことがないのです。私たちはその種の情報を決して掲載しません。万が一それがどこか他のところに掲載されたなら、私たちはその嘘を暴くことに取り掛かるでしょう...” 私は彼にこう訊いた。“では、**ジャーナリズム**はどうなったのですか - 政府と手に負えなくなった極度の秘密に対する抑制と均衡の機能を果たす、私たちの自由メディアは？” それに対し、彼はこう言った。“ご存じでしょう、そんなものは最早存在しないのです...” 我々はグラスを傾け、話を続けた。

私が会った有力な政府高官、国会議員、およびペンタゴンの高官たちは、ある種の分野を回避することを主目的とする、メディアへの侵入、墮落(買収)、そして愚弄について言及した。**大手メディア**からイカレ上院議員(Senator Moon Beam)と叩かれるだけだとしたなら、誰が極秘の UFO 関連プロジェクト(複数)に首を突っ込むだろうか？

当然、メディアの多くの人々はこれらの問題に決して首を突っ込まない。なぜなら、彼らは盲目的にその公式見解を受け入れ、その主題を取り巻く愚弄と偽情報工作を実行してきたからだ。独自調査の欠如、また広く行き渡った偏見が、大部分のジャーナリストがこれらの論議にざっと目を通すことさえも阻んでいる。ボストン・グローブ紙のある編集主任が、あるとき私にこう語った：彼らが UFO に関する記事を掲載することは決してない。“...たとえあなたが ET の遺体を私の机においたとしても...”なぜなら、そのような話題は低級タブロイドに属するからだ。（そう言いながら、セックス記事とゾツとする殺人の刺激的な詳細を四六時中掲載するのはいいらしい）大部分のジャーナリストが得るものは、せいぜい執拗な愚弄、および‘陰謀’論者と‘UFO 信者’の軽薄な否定である。事実はめったに調査されることはない。希にそれが行なわれるとき、その情報は妨害される。

情報関係組織が数十年間にわたりメディアに侵入し、それを利用していることは、公然の秘密でもある。知られていないことは、**大手メディア**が自由と正対する墮落した利益集団により管理されているその程度である。この蔓延する問題は、とても静かに巧妙に行なわれている。しかし、これらの利益集団が秘密にしておきたい本当の**重大情報 (Big Story)**に近づいた者は、誰でも何が起きるかを知っている。

そのようなジャーナリストたちは、究極の丸鋸 (buzzsaws) へとうっかり足を踏み入れ、**大手メディア**がいかに自由でないかを直ちに知る。ゴア・ビダールが序文を書いた本 *Into the Buzzsaw* (丸鋸の中へ) は、‘彼ら’が明るみに出たくない情報に偶然遭遇した - そして、メディアの抑圧がどれほど冷酷なものかを知った - 多数のジャーナリストたちの経験を詳しく述べたものである。

秘密の最も重要な部分は、先進的な工学技術、エネルギーシステム、推進システム - および UFO 問題 - を扱う一群のプロジェクトである。それらは、一旦公開されるや石油、ガス、石炭、あるいは原子力の必要性に終止符を打つ。この問題を取り巻く秘密と墮落は、他に類を見ないものだ - それはそれ自身の類の中にある。メディアはその主題を、傲慢あるいは軽蔑的なやり方で - または直接的な偽情報工作と愚弄により - ただ覆い隠すことしかできない。この主題についての誠実な調査報道は、どの大手メディアの報道局でもこれまで長期間行なわれたことがない - 50 年を超える秘密の年月のうちで一度も。なぜか？

それは、彼らがそうすることを許されていないからだ。もし彼らがそれをしたなら、それは彼らのキャリア、場合によってはその生命の終わりを意味する。私が話したことのある主流ジャーナリストは、その問題が持ち出されると、はっきりと分かる恐怖をあらわにする。これは誇張ではない。

もちろん、ウォーターゲート、モニカゲートといった世間をあつと言わせる‘調査報道’の事例があるために、国民はメディアが人々の利益を守り、勇敢に真実を探し出す、まさに獐猛な番犬だと信じている。そうだとよいのだが。

確かに、**大手メディア**は大統領の私的性生活のような瑣末な事柄を、四六時中報道することができる(速報:権力者が不倫をし、そのことで - なんとまあ - 嘘までつこうとするのは周知のこと!) あるいは、ウォーターゲートのどじで間抜けな不法侵入。しかし、本当の重大事件は決して掲載されず、調査は許されず、その真実は密かに、用心深く囁かれるだけである。

大手メディアの中のサクラこそは、大きな重要性を持つ多くの事柄について、真実が決して語ることがない主たる原因である。確かに彼らは人々に、刺激的なスキャンダル、減税、あるいは爆弾事件について語ろうとする。しかし、本当の権力に関する情報(複数)に接近すると、これら大手メディアの三文文士たちは背を向けて逃げる。

証拠は何か？

2001年5月、公開プロジェクト(ディスクロージャー・プロジェクト;www.DisclosureProject.org)は、ワシントンDCのナショナル・プレス・クラブで重要な国際記者会見を開いた。伝説的なホワイトハウス記者であるサラ・マクレンドンにより主催されたこの会見では、UFO事象とプロジェクト(複数)に関する20名を超える政府、軍、情報機関、および企業の最高機密目撃証人たちが主役となった。これらの中に、変わり者は一人もいなかった：提示された目撃証人たちの証言は、准将、大佐、FAA(連邦航空局)高官に及んだ。ナショナル・プレス・クラブの舞踏室は、世界中からのメディアでいっぱいだった。そしてその会見は - 短時間ではあったが - CNN, BBC, フォックス, その他多くの発信源から報道された。

この2時間の会見は、インターネット上で実況中継された最も視聴率の高い報道機関向けイベントだった。最終的には百万人を超える人々が、ネット上でこの会見を見た。我々は、不法で秘密にされたUFOを扱う計画(複数)およびエネルギーと推進のプロジェクト(複数)に対する、全面的な調査を呼びかけた。議会公聴会の開催が要請され、メディアにはこの問題を全面的に調査することが求められた。数万人の人々が国会議員と大統領に要請文を書き、公開プロジェクトが確認できた400人を超える軍と政府関係者の目撃証人の一部が証言できるよう、完全に公開された、誠実な公聴会を開くことを求めた。(読者は、60名を超えるこれらの目撃証人たちの証言を、Disclosureという本で読むことができるし、www.DisclosureProject.org でも見ることができる)

興味深いことに、インターネット接続会社コネク・ライブによれば、この会見の最初の1時間は‘プレス・クラブ外部の何者か’により、外部的な電波妨害を受けた。(情報源が後に確認したところ、これは放送に対する電子戦用妨害電波の一種だった)

二つの大手メディア・ネットワークの上級プロデューサーたち、彼らは事前説明を受け、彼らの時事雑誌プログラムの中で重要な紹介を行なう計画だったが、後日私にこう語った：彼らは彼らの調査または放送プログラムをそのまま進めることを許されなかった。私が、どうしてかと訊いたところ、彼らはただこう言った。“私たちがそうするのを、とにかく彼らは望まないのです”それで私が、‘彼ら’とは誰かと訊いたところ、こう言われたのだ。“グリア博士、あなたは彼らが誰か、ご存じだ...”

まったく。

ここでは、動かぬ証拠、政府公式文書、および数十人の信頼できる、裏付けのとれた最高機密目撃証人たちが、世界の主要メディアに紹介された - 大手メディアは実質的に何もしなかった。物議を醸す問題を含む主要な情報(複数)について、私はニューヨーク・タイムズが三点の裏付け証拠を要求していると聞いている。ここでは、申し分のない信用資格と高い国家機密取扱許可を持つ人々から、数十の裏付け証拠が提示された - 彼らは匿名の情報源ではなく、名前、階級、そして

職員番号までも紹介されたのだ！しかし、報道は短時間(事情通によれば、‘口先だけの報道の自由’に足りる程度の)であり、次には素早く降ろされた。どの**大手メディア**組織も、真面目な調査報道を行なうことを許されなかった。そして、今日に至るまで何事も起きていない。

このような‘編集上の裁量(editorial discretion)’は、重大情報を主要メディアから締め出すために、何百回となく悪用されてきた。人々はそのことを理解しないが、我々はすでに選ばれた少数者に微細管理されている、極度に制御され閉鎖された社会に住んでいる - 一般大衆向けの、民主的で開かれた社会のように見えてはいるが。トーマス・ジェファーソンの家、モンティチェロから数マイル離れてこれを書いている私には、彼が墓の中で目眩を起こしているのが感じられる...

一方、**大手メディア**の圧倒的な力と墮落にもかかわらず真実を明るみに出すのは、我々にかかっている。もう殆ど手遅れだが - まだ完全にというわけではない。ヘラクレス的努力により、我々はまだ人々の前に事実を明らかにすることができるかもしれない - 支配魔が全生態系を地に帰し、我々が終わりのない石油戦争の中で、**マッド・マックス(Mad Max)**のように、石油の最後の一滴を求め闘争に行き着く前に。

おそらく、**大手メディア**の誰かが進んでこれに取り組み、正義を行なうだろう。しかしそれよりは、衛星経由の“公開ネットワーク(The Disclosure Network)”と私が呼ぶものを開始するための、資金援助者を見つける必要がある。十分な資金があれば、我々は本当に重大な問題について真実の調査報道を始めることができるのではないか - そして、自由報道という約束を再開することも。

それまでは、言葉を語り広め、真実を知らせ続けよう。つまるところ、人々が先導すれば指導者たちはついてくる。墮落した企業**大手メディア**にとり、**ジャーナリズム**としての役割を回復するための時間は、残り少なくなりつつある。地球は、生態系の酷使、貧困という不正義から生まれた地政学的不安定、そして広がる石油戦争のさらなる 50 年間に耐えることはできない。方向を変え、平和に必要な持続可能な文明を生み出すのは、我々にかかっている。なぜなら、平和がなければ、未来などあり得ないからだ - そして、平和は真実、開かれた社会、正義がないと実現不可能である。行動すべき時がある。だが、我々は今こそ行動すべきである。

スティーブン・M・グリア 医師
公開プロジェクト責任者
<http://www.disclosureproject.org>
2004 年 4 月 29 日
バージニア州アルベマール郡

(訳: 廣瀬 保雄)

DDT (Decoy, Distract and Trash)

by
Steven M. Greer M.D.
Director, The Disclosure Project

Copyright 2002

DDT (おびき寄せ, 気を逸らし, 破壊する)

執筆: スティーブン・M・グリア 医師
ディスクロージャー・プロジェクト責任者

著作権 2004年

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

かつての NSA (National Security Agency; 国家安全保障局) 高官が、非公式に DDT と呼ばれているある手順について私に語った - DDT は、世界の大部分で長期間使用が禁止されている、昔の有毒化学物質である。今の場合、それは Decoy (おびき寄せ), Distract (気を逸らし), Trash (破壊する) を表す - これは、巧妙な情報工作員たちが、ある人物またはグループを罠にかけ、何か現実の重要な痕跡から彼らの気を逸らし、その人物または主題を破壊するために用いるものだ。

UFO (未確認飛行物体) 研究を取り巻くあらゆる物事の大半は、殆どこれに要約される。その最近の例は、大きな話題になったスピルバーグの連続ドラマ、‘テイクン (Taken)’ についてのサイファイ・チャンネル (Sci-Fi Channel) のキャンペーンだった。

この晩春か初夏に、私は‘テイクン’の販売促進に責任を持つ広報会社から連絡を受け、彼らがその番組を公開 (Disclosure) と連携させたいと思っていることを知らされた。私は次のように言われた: ‘テイクン’のキャンペーンを進めている人々は、“主流メディアと一心同体”であり、彼らは公開 (Disclosure) を強力にするために、UFO の主題を表舞台の中心に据えることに莫大な資金を投入しようとしている。これは一種の洗練された‘ピー・アンド・エー (P and A)’ (娯楽産業の業界用語で映画や作品を宣伝するための Prints と Advertising を表す) だと。

DDT. 公開 (Disclosure) と連携し、‘テイクン’のような営利事業 (サイファイ・チャンネルとはいえず) に公開の目撃証人たちと証拠をおびき寄せれば、究極の DDT 計画が達成される。それは真面目な目撃証人たちと証拠を乗っ取り、お決まりの‘私はエイリアンとセックスした’類の夏枯れ番組の中にそれを投げ捨てるだけではない。それは、重要な証拠、科学者、および目撃証人たちを、‘テイクン’のようなよそ者嫌い (xenophobic) のタイトルを持つサイエンスフィクション、そして地球外のあらゆる事に関して一般大衆の心に恐怖を増殖させる誘拐業のすべてに結びつけるものだ。

あなたは、他ならぬウェルナー・フォン・ブラウンが 1974 年に、彼の個人的な代弁者であったキャロル・ロジン博士にこう警告したことを思い起こすだろう: 冷戦が終わると、この舞台裏で暗躍する輩は世界的テロを大々的に取り上げるだろう。最後は、でっち上げられた宇宙からの異星人の脅威

だ。なお、ロジン博士はこの証言を 9/11 より前に行なった。

なぜか？宇宙からの訪問者たちについてのよそ者嫌いでヒステリックな見方（‘エイリアン’に見せかけた軍のイカサマ誘拐がまさにそれを表している）は、秘密の権力と支配を享受している誰にとっても都合がよいだろう：

軍-産業-研究所-情報機関-企業の複合体にとっては、スターウォーズに向けた数兆ドル規模の儲けの大きい支出があるだろう - 今度は戦うべき現実の敵である！映画インデペンデンス・デイの中で彼らが言ったように、“エイリアンを全力で蹴っ飛ばす...”

軍事主義で世界を結束させ、恐怖（我々が共有する博愛、平和などとは対立する）により支配することを望む陰謀家たちにとり、その目標を達成するのに、真面目な UFO の証拠を大々的に取り上げ、それを誘拐サブカルチャーに含まれる多数のでっち上げ偽エイリアン遭遇に連携させるよりよい方法が、他にあるだろうか？人々は恐怖によりたやすく群れにされ、支配される。哀れで無邪気な人間たちを空中に浮かせて UFO に吸い込み、拷問にかけ、性的虐待をする悪魔のような‘エイリアン’ほど恐ろしいものが、あり得るだろうか？あるはずがない。

誤り導かれた狂信的な信者や秘密カルト宗教の信者たち、彼らは世界の終わり、アルマゲドン（世界最終戦争）を長い間待ち焦がれているが、彼らにとり間違っただけの彼らの予言を成就させるのに、宇宙空間における最終大戦争より望ましいものはあるだろうか？

まさに、誰にとっても都合がよい、もし人々にそれを買わせることができるなら。しかし、どうやって？

全ての巧妙な偽情報には、幾つか本当の真実の情報が含まれている。真実を嘘に混ぜることで、嘘を信じられるものにする。だから、真面目なデータ、証拠、文書、目撃証人たちと一体にして恐ろしいエイリアン誘拐シナリオをでっち上げることで、その嘘はより一層容易に浸透する...

数百万ドルの誘拐業の内部にいる人々は、人間の軍工作人員たちが事を取り仕切っている - つまり、その活動を管理している - ことを思い出す誘拐被害者たちの抑圧された証言について、何年も前から私に語ってきた。ヘルムート・ラマー博士たちは、無法な闇の活動による、この一般市民へのおぞましい虐待について立証した。最も重要なことは、彼らがいかにして - そしてなぜ - これらの‘エイリアンによる誘拐’をでっち上げてきたか、それをきわめて詳細に述べた軍と企業の部内者たちに、我々がインタビューしてきたということである。

真実は、ありふれた風景の中に隠される。だが、それは幾重にも偽装されているために、姿を現すことはめったにない。

そのような軍工作人員の一人が私に語ったのは、彼のチームがある時重要な軍人たちを誘拐し、‘エイリアンを憎悪する’ように仕向け、闇のスターウォーズという怪物に乗るようにさせる方法だった。

もしあなたが数十億ドルの闇の予算を自由にすることができ、逆行分析 (reverse-engineered) で複製された異星人の輸送機 (ARVs) (<http://www.DisclosureProject.org/shop.htm>) で入手できる本

‘Disclosure [公開]’の中のマーク・マキヤンドリッシュの証言を見よ)を持ち、‘エイリアン’に見える地球上でつくられた生物と精神に作用する高度な心理兵器システムを持ったなら、‘エイリアンによる誘拐’をでっち上げるのは、赤子の手をひねるように簡単だ。

そして、ご存じのとおり、真実はフィクションよりも(実にサイファイ・チャンネルのフィクションよりも)はるかに奇怪である。だから、誰がそれを信じるだろうか？

さて、我々はそれを試みた。私はこのすべてを、サイファイ・チャンネルと広報会社にいるスピルバーグ氏の代理人たちに説明した。そして私は、それが彼らの計画の一部になっているのではないかと、言うことにこだわった。誘いはこれまで実現していない。本当に驚いた！

クリントン大統領の首席補佐官ポDESTA氏やその他の著名人(悲しいかな、公開プロジェクトの目撃証人も何人か含まれる)を使って、この DDT 活動はフォン・ブラウンがずっと以前に予見した、でっち上げられた異星人の脅威を活性化しようと企てている。というのは、本当の ET(地球外知性体)と UFOの証拠、真面目な軍と政府の証言を、‘テイクン’のようなよそ者嫌いのタイトルを持つサイエンスフィクション作品に結びつけ、さらに誘拐業により広められている、悪意と恐怖に満ちた他のあらゆるイカサマ体験に連携させる以上に恐ろしいことがあるだろうか？素晴らしい DDT だ、これは。

スピルバーグ氏、ポDESTA氏、サイファイの重役たち、ジョージワシントン大学、PBS(パブリック・ブロードキャスティング・サービス)のレイ・スアレス、あるいは他の人々が、これについて何か知っているのかどうか、私は知らない。ほとんどの場合、DDT 偽情報工作策動の中の大部分のプレーヤーたちは、彼ら自身が無意識の被害者である。彼らがそうであることを願おう。

しかし、力のある者は責任もある。そして、スピルバーグ氏たちは金も力も持っているのだから、スターウォーズとアルマゲドンを準備するためにつくられた DDT 策動に利用されないよう、相応の注意を払う必要がある。

特に、スピルバーグ氏。なぜなら、彼がホロコーストを生き抜いた人々の証言を記録することにより、その歴史を立証したその献身に対し、私はずっと敬意を抱いてきたからだ。私は今、彼が、おそらくは無意識のうちに、地球がかつて見たことのない最悪のホロコーストを解き放つことに利用されているのを心配している。

スティーブン・M・グリア 医師
公開プロジェクト責任者
2002年10月24日

さらなる情報は、グリア博士の論説 “When Disclosure Serves Secrecy(公開が秘密に仕えるとき)” (また <http://disclosureproject.org/writings.htm> にある他の関連論説)を参照されたい。

(訳:廣瀬 保雄)

GOING TACTICAL

BY STEVEN M. GREER MD

Copyright 2004 Steven M. Greer

その場限りの対処方策

執筆：スティーブン・M・グリア 医師

著作権 2004年 スティーブン・M・グリア

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

テロリズムという癌が世界中に転移しているこの時に、我々は足を止め、どうして我々がこの状態に立ち至ったか - そして、どうしたら我々は問題を解決できるか - を分析してみるのがよいだろう。

現在、この問題の根本に実際に取り組み、少しでも意味のある解決策を示している世界の指導者は、誰もいない。今まで米国と国際社会は、深刻さを増す困難で予測可能な問題に対し、まったくその場限りの(戦術的な)対応をしてきた。

とりわけテロリズムの、一般にはゲリラ活動の非対称性により、戦術的な解決策がその目的を達成することは決してない。米国とその同盟者による進行中のテロとの戦い、およびその他の行動は、問題を解決するための一つの効果的戦略であると言われている。しかし実際には、それは放置されたままになっているより大きくより根本的な問題に対する、短期の戦術的対応に過ぎない。

戦術的行動が無価値、あるいは常に間違いだと言っているのではない。そうではなく、その種の行動を、根底にある問題を正すための意味のある戦略的分析、およびそれに付随する戦略的計画と混同してはならないということである。

テロリズム、宗教的狂信、殺人行為、等々に対するまっとうな防御などあり得ないが、それでも我々は、なぜ問題が存在するのかをありのままに考察する必要がある。

これやあれやの‘イズム’のために暴力の種をまき散らそうと身構えている宗教的狂信、闘争、殺人狂は、常に存在してきた。しかし、現在の世界 - ‘欧米なるもの(western)’の全てに向けられたテロリズムの蔓延は、主流メディアと世界の政治指導者たちから現在は殆ど無視されている、一つの歴史により増幅されたものだ。

すなわち：欧米(The West)は世界の多くの地域、それも特に石油豊富な中東に、長居をし過ぎてきた。こう述べたからといって、それを孤立主義と混同してはならない。むしろそれは支配的な、時には好戦的な駐留だったことを指摘している。次のことを思い出す必要がある。つまり、オサマ・ビン・ラディンその他は、実際にはアフガニスタンへのソビエト侵攻に対抗する‘自由の戦士’を代理支援する、米国の同盟者だったということである。あのサダムは、イラン人質危機の後、我々の同盟

者だった。そして、あの地域とその他の場所の多くの独裁者の富、権力、能力は、ただ一つのものにより支えられてきた：**石油 (Oil)**である。

数十年間にわたり、米国の戦略上の国益は(冷戦を別にして)、安い石油の安定した着実な増量供給を確保することに集中してきた。石油の富が、サダムの一団に大量破壊兵器を獲得する手段を与え、また中東地域に戦略問題の中心的役割を与えた。

サダム・フセインに対する第一次湾岸戦争は、サダムがクウェートの石油豊富な土地を欲しがったため - そして、我々が‘重要な国家安全保障上の利益’(石油と読む)であるクウェートとサウジアラビアを守ろうとしたために起きた。この地域における我々の長い駐留が民族主義者と宗教的狂信者たちを怒らせ、かつて我々の同盟者だったオサマは不倶戴天の敵になった。

これらすべての中にある現実の悲劇は、少なくとも 1950 年代以来 - おそらくはそのずっと以前から - 我々には石油も、石炭も、原子力も必要なかったということである。石油の代替物、および内燃機関の効率を著しく向上させる技術は、数十年間存在し続けてきた - ただ冷酷に抑圧されるだけのために。

石油がなかったなら、我々が中東で長期間の横柄な駐留を続けるつもりだったなどと、誰が本当に信じるか？(イスラエルは、関連するが別の状況であり、ここでの分析には全体として当てはまらない)

もしそうなら、なぜ我々は中央アフリカ、南アメリカ、あるいは他の多くの紛争地域にいないのか？

他の多くの国家指導者たちと同様に、ブッシュ大統領は 2002 年の一般教書演説で、輸入石油からの独立は我々の国家安全保障の問題だと述べた。しかし、どうやって？全体的に、我々の依存度は増大しており、アラスカや米国の他の場所で地面にさらに幾つか穴を掘ったところで、その方程式には殆ど影響を与えないだろう。

議会を通過した最近の数十億ドルの“エネルギー法案”は、実際には大手石油企業のためのご機嫌取りだった。それはいかなる有意義な解決にも寄与せず、いろいろな意味で問題を悪化させる。

2003 年 2 月、米国がイラクに侵攻する直前に、ブッシュ家のある友人が私にこう語った。“...もちろん、これは実際には世界第二位の規模の油田を確保することに関係しています。誰もがそれを知っています”初めは愕然としたが、私はこの紳士が次のように説明するのを聞いた。中国が(インドとともに)急速に工業化しているために、我々の戦略上の権益からイラクの油田を‘開放’し、その生産量を最大限に引き上げる必要があった。もちろん、サダムは酷い独裁者だった - だが、世界のあの地域には多くの酷い政権があり、人権侵害がはびこっている。しかし、サダム - 彼はイラクの油田を自由に利用し最大限に開発することを阻んでいた。それが許し難い罪だったのだ。

公開プロジェクト(www.DisclosureProject.org)が入手している目撃証人たちは、重要な増えつつある多くの科学的証拠とともに、世界の化石燃料と原子力への依存は、人為的な計画であることを立証する。我々には他に選択の余地がないために新たな石油資源を探し続け、中東の石油に関連

する死活的な欧米の権益を守らなければならない、というこの**大嘘 (Big Lie)**は、暴かれて解消されなければならない。確かに、世界経済の数兆ドルの部分は今、不幸にも石油に依存(中毒というべきか)している。しかし、これは大胆な指導力を欠く言い訳にはなり得ない。テロリズム、石油ファシズム、環境崩壊、地球温暖化、そして富める国と貧しい国の間の広がる格差。このような多面的な危機は、我々の石油依存、およびそれに関連する権力の行き過ぎと誤用にその根本がある。

いわゆるゼロポイント・エネルギーおよび量子真空エネルギーの分野における有望な進展は、より平凡な内燃機関効率の飛躍的向上とともに、数十年間無視されるか、能動的かつ冷酷に抑圧されてきた。(www.SeasPower.comを見よ) 国民、メディア、環境団体、および国際社会は、これらの問題を緊急に調査し、これら新エネルギー技術の完全な応用を実現するために、民間の取り組みを支援する断固たる手段を取らなければならない。

秘密のきわめて違法なグループが存在し、これらの工学技術を能動的に抑圧してきた - それは今日この時点まで続いている。現在我々とともに取り組んでいる複数の科学者たちは、これまで脅迫され、研究を妨害または押収され、ほとんどの場合、脅されて身もすくむ沈黙へと追いやられてきた。我々が次々と石油戦争に突入する一方で、このようなことが行なわれているのだ。

軍、情報機関、研究室、企業、および協会組織と闇のつながりを持つ複合型の汎国家的組織(なおかつ誰にも管理されていない)によるこの活動は、高度な機能を持つ組織犯罪集団のようであり、数十年間恐怖により支配してきた。実に**最大のテロ (Big Terror)**は、人々に知られず問題にもされていない。その一方で我々は、失敗した数十年に及ぶ石油依存政策の負の結末を追いかけて、世界中を走り回っている。

議会のメンバー、情報機関の高官、ペンタゴンの高官といった人々(彼らの全員がこのようなグループの存在を確信している)と直接会ってきた私は、このグループが引き起こしている恐怖を直に目撃してきた。しかし、恐怖に負けて断固たる行動を拒む危険をおかすなら、それは我々に大きな代償を強いる文明の段階に我々は至った。

この状況を正すために我々が共同で行動しない限り、最近のテロリストたちによる攻撃など、将来に起きる出来事に比べたら懐かしい思い出になるだろう。ペンタゴンでさえ最近では、地球温暖化に関連した突然で破滅的な気候変動の可能性について警告している。それは地球を環境的、社会的、軍事的な混沌に陥らせる。この危機の解決策が、軍と企業の不法な‘闇の’プロジェクト(複数) - 米国の納税者の税金により賄われ、塹壕に身を潜めて支配に没頭する泥棒政治により隠し通されている - にしまい込まれているというのに、我々はいかなる代償を払おうとも無為に傍観しているのだろうか？

実に、恐怖、貪欲、近視眼的な世界観と宇宙観に駆られたこのような思考は、人類文明を崩壊の瀬戸際に導いている。地球と生命を救うこれらの工学技術(複数)の抑圧は、あまりにも酷くあまりにも長期間行なわれてきた - その結果、これを行なっている輩は故意に惑星殺し(planeticide) - 惑星全体の死滅 - をしようとしている。

現時点で、宇宙エネルギー利用システムズ有限責任会社(Space Energy Access Systems, Inc.;

SEAS)は、化石燃料を完全に置き換える工学技術を開発できる科学者たちを確認している。我々の予測では、12 から 36 ヶ月以内に、このようなエネルギー発生システムの第一世代を、広範囲の応用に適った装置にすることが可能である。しかし、基礎研究と開発の資金に数百万ドルを要するこのような事業は、政府によっても金融界によっても支援されていない。なぜか？

訳者注記：SEAS は現在ない。2007 年 7 月に AERO, Inc. (先進エネルギー研究機関)が新たに設立された。

国民は、新エネルギー技術が急速に開発され広範囲に応用されるようにするために、我々のあらゆるレベルの議員たちがこれらの工学技術を真面目に調査し、環境マーシャル計画を始めるよう要求しなければならない。

これまで、発明家たちは自らの資金で原理の証明を行なうシステムを生み出してきた。しかし、それらは今までのところ民間金融機関に支援されていない未熟な工学技術であり、政府の助成制度も反応してこなかった。国民はこのような事業を支援するつもりがあるだろうか？ - 政府と巨大金融界の腐敗と慣性を迂回して。我々は間もなくそれを知ることになるかもしれない。

しかし、これだけは確実である： 方向を変えなければ向かっている所で終わりになる...

テロリズム、石油依存、地政学的緊張、環境破壊、地球温暖化に関連する絡み合った諸問題の重なりに対処する、本当の戦略に少しでも近づいた方策を示している国家あるいは世界の指導者は、一人もいない。彼らは**その場限りの対処方策(戦術) (GOING TACTICAL)**を行ない、これを戦略だと誤解している。それは戦略ではない。それは、断固たる戦略計画と行動に対する、ごまかしの下手な言い訳に過ぎない。この行動は半世紀の間必要とされてきた。しかし、恐怖、貪欲、墮落、そして権力力学により、それは悲劇的にも引き延ばしにされてきた。今、我々はそのツケを払っている。

たとえ我々が、テロリストたちの増長を一時的に遅らすことに戦術的に成功したとしても、依然として我々には問題の核心が残される： 石油への我々の切実な要求と多くの問題。石油、石炭、およびガスに基盤を置くエネルギー供給のゼロサムゲームは、否応なしに格差を生じさせ、それは世界人口の少なくとも三分の二に終わりのない貧困を強いる。このるつぼの中で、無数の生き地獄が生まれるだろう。そして、それは 9/11 に対する戦術的対応、イラクへの侵攻、あるいは、賞賛されるかもしれないとはいえ、中東での民主主義の確立によってさえも、少しも改善されないだろう。厳しい現実には、我々の文明が最終軌道上にあるということである。我々は、墜落するか将来に無事たどり着くかの歴史の交差点にいる。本当の指導力が求められており、これらの新しい工学技術に整然と理性的に段階移行するための意味のある戦略が、今必要とされている。

私は関心を持つすべての市民に対し、彼らの議員たち、我々を先導する熱意を持つ人たち - 大統領、国会議員のどのレベルであれ - の注意をこの問題に向けさせるよう求める。彼らを義務不履行のままにさせてはならない。彼らには、もし指導者たらんとするならば、指導する厳粛な責任がある。市民は遊説、集会、タウンミーティングなど、あらゆる機会をとりえて事実を提起し、行動を要求すべきである。

我々は、持続可能なよき未来に備えるという神聖な義務を放棄し、無法で身勝手な利害勢力が

我々の運命を乗っ取ることを許してきた。我々はこの狂気を続けるつもりか？

これらの問題に対する解決策はある。しかし、国民と我々の指導者たちを欺こうとする‘特別利益団体’は、とてつもなく強力で冷酷である。メディアにいるサクラたちは、この主題を無視し、検閲し、愚弄する。また、大勢の偽情報工作の雇われ三文文士たちは、科学者、‘専門家’などを装い、世界に提示される意味のある技術なら何でもたたき壊そうと待ち構えている。だから、課せられた仕事は気が遠くなるほどに困難だ。しかし、無為の結末はあまりにも悲惨で破滅に至る可能性を秘めているために、あらゆる努力により状況を正す必要がある。

この問題を多くの科学者、発明家、およびエネルギー研究者たちの連携組織と議論した結果、我々が得た結論は、進展のためには数千万ドルの真剣な研究開発努力が必要だということだった。しかし、これは偽りのエネルギー研究といわゆる 2003 年エネルギー法案に米国だけで使われる数百億ドルを考えたら、丸め誤差に過ぎない。国民は、このような有望な新エネルギー研究に、少なくとも種となる財政的支援を与えるよう要求すべきである。

環境団体や慈善団体は、現在の最新技術を応用へと進展させ、人類に迫っているエネルギー危機と環境の大変動を解消するために、これらの技術の展望について研究し、支援と資金援助をする必要がある。

何年もの間、先進的な工学技術は墮落した企業あるいは軍／産業／研究所／情報機関複合体により、丸飲みにされてきた。多くの発明家の勇敢で自己犠牲的努力により、原理の証明へと発展させられたこれらの工学技術に支援と保護を与えることを、我々は共同で誓約しなければならない。我々の努力が人類の利益となって戻ってくるようにしよう。そして、人類を待ち受けている持続可能なよき未来を確実にするために、あらゆる試練に耐え、あらゆる犠牲を払い、あらゆる努力をすることを決意しよう。

参考文献：

Scott, Wm. B. To the Stars. Aviation Week and Space Technology/ March 1, 2004

Stipp, D. The Pentagon's Weather Nightmare. Fortune/January 26, 2004

Schwartz, Peter and Doug Randall. An Abrupt Climate Change Scenario and Its Implications for United States Security. October 2003. (report commissioned by the US Dept. of Defense - Available at: http://www.ems.org/climate/pentagon_climate_change.html#report).

ナショナル・パブリック・ラジオ(NPR)2004年5月5日の Living on Earth の番組中、これらの諸問題についてハーバード大学の地球・惑星科学教授シュラーグ博士がインタビューを受けた。ステューブ・カーウッドの質問に答えて、彼は次のように言及した：

カーウッド：なぜ今、急激な気候変動に対する疑問にこれらの多くの注目が集まっているのですか？あなたが私たちに語ったグリーンランドの氷床コア試料は長期間のものですが、気温の大きな変化が起きるのに数十年もかからなかったことを立証しています。それなのに今日、たとえば国防省やハリウッドの人々は、急激な気候変動に対する疑問に突然注目し始めました。どうしてそんなことが起きているので

すか？

シュラーグ： この社会には現在の私たちのエネルギー技術に多大な経済的利害を持つ強力な勢力があり、変化に抵抗しているのだと思います。だから彼らは、このことが単なる学説、つまり気候変動は科学者たちが確信を持っていない単なる学説に過ぎない、という考えを広めてきました。そして、この領域における行動を阻止してきました。

スティーブン・M・グリア 医師
2004年3月26日
バージニア州アルベマール郡

(訳：廣瀬 保雄)

WHEN DISCLOSURE SERVES SECRECY

Steven M. Greer M.D.

Copyright 1999

公開が秘密に仕えるとき

スティーブン・M・グリア 医師

著作権 1999年

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

UFO/ET(未確認飛行物体/地球外知性体)の主題を取り巻く秘密を終わらせることは、賞賛に値する目標である。それはとうの昔に実現されているべきものだった。それは世界を簡単に、根底から変えてしまうだろう。

また一方で、それは危険に満ちている。

UFOに関連する計画を60年近くも実行してきた闇のプロジェクトは、彼らのリングを運ぶ手押し車をひっくり返す公開(disclosure)には興味がない。彼らは、彼らの手押し車を貨物列車に変える公開を欲している。彼らはそうするだけの力と組織を潜在的に持っている。

UFOの主題の公開に伴うシナリオにはいくつかある - そのすべてが人類の本当の最大利益になるわけではない。私は、新著“*Extraterrestrial Contact: The Evidence and Implications* (地球外接触: 証拠と意味)”の中で、世界が必要とする種類の公開について書いている。誠実な公開。隠し立てのない公開。秘密を民主主義に置き換える公開。平和的な、科学的な、希望に満ちた公開である。

しかし一方、時の支配勢力が見たいと思っている公開もある: 操作された公開。権力基盤を固め、恐怖を引き起こすように計画された公開。混沌とビッグ・ブラザーズ(Big Brothers)を益々必要とする心理が、大衆の間に注意深く植え付けられるように仕組まれた公開である。

我々はその計画(複数)を目撃してきたし、それはきれいな絵などではない。

私は、これを一つの警告として書いている。つまり、羊の皮をかぶった狼たちは実に狡猾である。また、ほぼ無限の資源を手中にしている。彼らとともに働いている大部分の人々は、彼らが狼であることさえ知らない。実のところ、狼の多くは彼ら自身を羊であると思い込んできたように思える。

UFO問題は、意図的に曖昧化され神秘化されてきたほどには不可解ではない。権力と計画(複数)が静かに強化される一方で、混乱と透明性の欠如が、この問題を社会の長距離レーダー画面から外れたままにしておくという、より大きな隠された目的に役立っている。そして、このすべての秘密よりも社会にとり危険な一つのことは、秘密の保持者たちにより実行される、計画的な仕組まれた

公開である。

長い間、そのような計画が練られてきた - 好機が到来したときに実行されるために。何かの期待が高まるとき。社会が混乱するとき。もしかすると、千年至福の熱狂のときか？

私は、このような計画に深く関わる多くの人々と直接会ってきた。私はここで根拠のない推測を述べているのではない。知って欲しい： UFO の現実性についての公開が、とても慎重に計画されている。まさに適切なやり方で、その主題の作り話が熱心に画策されることになるだろう - 秘密の保持者たちの栄光と権力をさらに高める唯一の方法で。それは偽りの公開になるだろう - 長く続く人類破滅の原因から生まれた公開： 身勝手さと貪欲。権力欲。支配欲。優越欲。

我々は、このような問題について分別を持ち、知っていなければならない。油断のない知っている国民だけが、このような欺瞞を見抜くことができる - また、万が一このような計画が実行されても、それを正すことができる。すべての市民は、大いなる価値は知られている真実から来ることを知る必要がある。しかし、分別のある市民は、次のことも覚えておかなければならない：“真実”の作り話は、繰り返し繰り返し語られる可能性がある - 秘密と公然たる権力を切望する輩の目標が達成されるまでは。考えて欲しい： 公開の一つのシナリオは、UFO と地球外知性体の主題が、科学的かつ希望に満ちたやり方で認知されるというものだ。管理部門と議会の監視を欠いた、行き過ぎた秘密は終わらされる。人類は平和的な関係を目指し、他文明との開かれた接触を受け入れ始める。現在抑圧されている工学技術(複数)は、その普及が認められる： 汚染は解消する。豊かな経済と社会的公正が、揺るぎなく確立される。地球環境の破壊と気の遠くなるような世界の貧困は、遠い記憶となる。ゼロポイントに基盤を置くエネルギー装置により、世界は転換する。電気重力装置が、世界の貴重な沃野を舗装することなしに、地表面上を浮遊しながら移動することを可能にする。かつて一人の ET がフィリップ・コース大佐に語ったように、“それは新しい世界だ、もしあなたたちがそれを手にすることができれば...”これが我々が取り組んでいる公開である。

しかし、上記に思い描いた公開は、1950 年に起きていたはずだった。それが起きなかったのはなぜか？そのような公開は現体制の全面的な転換を引き起こす、というのがその理由だった。集権的なエネルギーシステムは時代遅れになっただろう。石油の用途は潤滑油と合成化学のみになっただろう。今日の地政学的秩序は忘れられたものになっただろう： 地球上のどの国も人々も、このような高度な進展と進歩を享受し、それによりすべての国家は世界というテーブルに一つの席を持つことになっただろう。権力を分かち合うことが必要になっただろう。どこか他の場所から来た生命を平和的に受け入れることにより、地球がとても小さな、まさに有機的な故郷そのものであると思えるようになっただろう。数兆ドルの世界の軍産部門は抑制されただろう。そして、普遍的な精神性が兆し始めたかも知れない...

だが、覚えて欲しい。このシナリオを恐れるきわめて強力な利害勢力がある。彼らにとり、それは彼らが知っている世界の終わりである。それは集権的な、選ばれた少数者の権力の終わりである。それは、今日地球上のほぼ 90 パーセントの人々を石器時代からやっと一歩踏み出した状態に置き去りにしている、地政学的秩序の終わりである。そして彼らは、彼らが振りかざしている権力を分かち合うことを望まない。

さて、私はこれらの闇の支配計画を喜ばずであろう“公開”について説明しよう。これは、ただ一つの明快な目標を持つ偽りの、または仕組まれた“公開”である - 彼らの権力と彼らのパラダイム(理論的枠組み)の一層の強化。それは愛ではなく、恐怖に関与する。それは平和ではなく、戦争に関与する。それは和合ではなく、分裂と闘争に関与する。それは支配のパラダイムである - だが、それは徐々に静かに去りつつある。それなら、UFOとETの主題の注意深く画策された“事実”の公開が、彼らの権力を保証できるのではないだろうか。これが、恐れるべき公開である。これが、警戒すべき公開である。これが、すでに起きている公開である。

UFOに関連する計画に従事してきた秘密工作員たちとの過去9年間に及ぶ会合で、私は完全にスパイ小説から抜け出した数人の人物と会うことになった - さらに多くの人物とも。民間先端企業、ペンタゴン、あるいは深夜の私有マンションなど、どの会合でもある主題(theme)が浮かび上がった。それは途方もない、しかし現在は隠されている権力である。それは、我々が知っている政府を超越する(現時点で、“我ら人民...”の政府はこの問題に関しては無関係になっている)。そして、その主題は二つの主要な要素(strands)を持っている - ET主題の密かな最終的軍事化、そして異様としか思えない奇妙な宗教的傾向である。

ここで我々は、実に幾つかの奇妙な同類たちを見出す。ある種の異様な終末論的傾向を共有する実業家と共謀した、戦争屋と軍事主義者たち：地球外アルマゲドン(extraterrestrial Armageddon) - あるいは少なくともその脅威 - を思い描く、暗い未来展望。このような主題は、軍備競争を宇宙に拡大するための深い闇の軍産計画とともに、時代錯誤で狂信的な宗教的動機を支持する。

実際に、いわゆる“民間 UFO 団体”の中心人物たちは、そのような信念と行動計画に捕らえられている。それがとても信じ難いものであることを、私は認める。しかし、ここで述べているのは我々がこれらの活動に侵入して知ったことである。

軍産の観点からすると、最高の公開はUFO/ET問題を脅迫的なやり方ででっち上げるものである。もし宇宙からの脅威を認めさせることができれば、(レーガン大統領が好んで言ったように)そのとき全世界をそのような脅威と戦う必要性の周りに結束させることができる。これは次世紀、またその後まで十分に続く、数兆ドル強の軍産予算支出を確実にするだろう。もしあなたが冷戦には費用がかかったと考えるなら、この宇宙の“脅威”からの“防御”につけられる値札を見るまで待った方がいい：冷戦に使われた数兆ドルなど、破格の安値に見えるようになるだろう。

時代錯誤で狂信的な宗教団体も、同様に、アルマゲドンの約束が成就されることに大きな既得権利を持っている。闇のUFOプロジェクトを実行している輩の信念体系の中で大事に信奉されている、ある終末論的パラダイムは、天国における宇宙的闘争の描写により支持されている。どうだ！我々は、邪悪な侵略するエイリアン(宗教用語で悪魔と訳せる)という方向で、UFO/ET問題を作り上げる必要があるのだ。実際に、これは“民間 UFO 団体”とタブロイド・メディア(現時点で、実質的にはすべてのメディア...)のお陰で、すでに成し遂げられている。

加えて、そこには薄くベールで覆われた人種差別としか思えない、言外の意味がある。UFOの“新たな神話”の一部では、“良いET”が語られていることにあなたは気付くだろう。それは常に“プレイアデス人”と記述され、“ハンサム”な白人で、碧い眼をしたアーリア人のようなタイプである。当然な

がら、“邪悪な、悪い ET”は色が黒くて背が低く、奇怪な容貌を持ち、おかしい臭いがする。お願いだ。このようなたわ言は、異星人の多様性を長く続く人類の人種差別で置き換えようとするものだ。このナンセンスとプロパガンダは、ヒトラーを高慢にすることしかできなかった。

ある超大富豪との長時間の会合の中で、私は彼からこう聞かされた。彼は、いわゆる“エイリアンによる誘拐”の主題を人々の意識に浸透させる UFO 活動に、多大な支援をしている。なぜなら、彼はこの“エイリアンの脅威”との戦いの周りに人類を結束させたいと思っているからだ。この大変影響力のある人物は、後で私に次のように打ち明けた。彼はこれら悪魔のような ET たちが、アダムとイブ以来人類が経験したあらゆる挫折の原因だったと信じている。聞いたことがあるだろうか？

軍が関与する人間による誘拐といった、ET 事象をでっち上げる闇のプロジェクトに深く関わる軍の利害勢力は、UFO/ET 現象を悪魔化するという共通の目標を持っている。そうすることで、ET なるものすべてに向けられる組織化された敵対に必要な、恐怖と不安のための基盤が据えられる。そしてこれは、たとえ世界平和が出現したとしても、地球規模の軍隊を拡張するための論拠を与えるという、持続的要求に役立つ。実際に、このシナリオのもとでは、“世界平和”あるいは厳密には地球上の平和は、レーガン大統領が言及した“宇宙からの脅威”に対抗する、最終的に結束した世界により保証されるだろう。(なお、私が個人的に確信していることだが、レーガンは、彼を取り巻きこの主題についての声明を出すよう彼を操った、偽情報工作専門家たちの犠牲者だった)

観測気球 UFO“団体”により目下策動され“公開”されているこのシナリオのもとで、我々は地球上の平和を手にするだろう - 惑星間紛争と引き換えに。一步前進、十歩後退。お見事だ。

UFOとETに関する、このような偽りの仕組まれた“真実の公開”は、こうして強力な闇の利害勢力の行動計画を助ける。彼らは軍産部門とアルマゲドン- 早ければ早いほどよい - を待ち焦がれる奇妙な宗教的狂信者の集合体の両方にいる。

このような軍事主義者たちとカルト的宗教勢力の奇妙な混合物などありそうもない、と読者が考えるなら、第三帝国の不気味な考えを思い出して欲しい。あるいはもっと最近では、ジェームズ・ワッツというレーガン政権の米国内務省官僚の見解がある。彼は 1980 年代に、まだマイクのスイッチが入ったままで話が録音されていることを知らずに、こう述べたのだ。“私たちはこれらの環境問題など、どれも心配する必要はありません。アルマゲドンが近づいており、どのみち世界は破壊されることになるでしょうから...” 米国政府内務省のために政策を企画し実行した人物が抱いていたこの異様な考えは、後に一般メディアで報道された。当時は、おそらく話に滑稽な尾ひれを付けて。だが、そのような信念が闇の UFO 政策 - 特に公開計画 - を決定している度合いについて、それは何を示すか？我々が知ったところでは、そのような考え - 大部分の人々には異様に思えるだろうが - は、UFO の主題に関する闇の政策がどういふものを濃厚に表している。

そして、最も当惑すべきこと： 軍による宇宙での軍事的威嚇と異様な宗教的信念のこの奇妙な混合物は、“民間 UFO 界”，および UFO 公開についての計画された最終的“作り話”の双方を方向付ける、支配的な力である。買い手は要注意。

理性と知性を持つ人々にとっては、このような考えは馬鹿げたものに思える。あなたはこう訊ねるか

も知れない：宇宙空間での宇宙戦争、アルマゲドンと地球の破壊を望む者がいるのはなぜか？これを理解するには、このような信念を持つ人々の頭の内部に入り込む必要がある - たとえばジェームズ・ワッツのような人々。彼の場合、どうせ数年後に全世界が破壊されることになるなら、なぜ少しばかりの森林消滅、空気汚染、死の海域について心配するのか？

だが、思考はこれよりもっと先へ行く。なぜなら、このような狂信的思考は、アルマゲドンの結果として我々はキリストの再来 - および善良な人々の救済 - を見るだろうという観念を、その中に持っているからだ。さて、人々が何を信じるかは自由だ。しかし、我々が知ったのは、そのような信念により闇の UFO 政策が意図的に及ぼす影響だった。これらの人々の一部はアルマゲドンを望んでいる - 彼らはそれを一刻も早く望んでいる。

厳密に言えば、映画インデペンデンス・デイの中で言われた、“エイリアンを全力で蹴っ飛ばす”ことをしたくてたまらない軍事主義者と戦争屋たちは、彼らの存在を正当化する口実と、認識された(仕組まれたものだとしても)宇宙からの脅威に対して、結局は巨額の金を世界に使わせることを本当は望んでいるだけなのかも知れない。

しかし、ある場合には - UFO の秘密を実行している闇の組織の上層部 - それら二つの考えが交わる。軍事主義と終末論が融合するところ。そこでは、スターウォーズとアルマゲドンが合体する。

民間 UFO 団体と UFO に関係した闇の政策立案グループの双方の歴史を調べていて、我々は後者が前者に益々深く侵入していったのを知った。その結果、現時点では、表向きは無邪気な民間主導だが、実際には超極秘プロジェクトからの“連絡員”により完全に制御され、資金援助されているプロジェクト(複数)が存在する。

さらに、我々がそのようなプロジェクトに注意深く侵入して知った憂慮すべきことは、身分を隠した闇のプロジェクト作業者たちが、言うところの民間研究者、ジャーナリスト、および UFO 有名人たちと緊密に連携して活動しているという事実だった。CIA と軍の情報作業者たちは、終末論者のきわめて裕福な実業家、さらには民間“シンクタンク”所長たちとともに活動しており、“民間”科学技術者や科学者たち - 彼ら自身が世界の終わりや ET などに関わる異様な信念体系の支持者である - から助言を受けている。

こうして、新しい“神に選ばれし者たち”が招集されてきた。彼らが、UFO/ET の主題について人々の公開を計画している。彼らは、そもそも UFO プロジェクトを実行する秘密組織に入札している拝金主義者と陰の実力者たちに所有されている。それはすべて民間主導のように見える。とても無邪気で、善意に満ちている。そして、とても“科学的”である。ところで、ET のせいで天が落ちかかっている。それを防衛するために、我々にはあなたの金と魂が必要だ。

騙されてはいけない。誰かが世界に押しつけようとしている暗黒のシナリオに、あなたは気付く必要がある。そして、別のシナリオがあることにも。もし、よそ者嫌いの軍事的な怖い“公開”が世界に解き放たれたなら、それは秘密の情報操作専門家たちによるものだと知って欲しい - その人物やグループがどんなに立派に見えようとも。

そして、覚えて欲しい：この公開計画の一部として、地上や地球の軍事施設を攻撃するための UFO に見える人間製の装置が使用される。これは、ET の攻撃をでっち上げるため、人間の進歩した工学技術を使ってうまく仕組まれたものになるだろう - すべてが、都合のよい軍事指向の作り話を伴った真実を公開するためである。そのようなシナリオの中で、人類の大部分は騙され、宇宙からの脅威がやってきたと信じるようになるだろう - 我々はあらゆる犠牲を払ってそれと戦わなければならない。これは、軍産複合体のための長期社会保障でしかない。この詐欺を暴ける人々がいるはずだ。だが、なぜ我々は、これらの暗黒のシナリオが疑うことを知らぬ世界に解き放たれるのを待たなければならないのか？

ここに、もう一つの発想がある：なぜ“我ら人民”は、結束して上記に示した最初の公開を立ち上げないのか？ 誠実な公開。戦争ではなく、平和に導く公開。汚染がなく、あらゆる豊かさに溢れた持続可能な美しい世界へと導く公開。宇宙の暗黒に向けて粒子光線兵器を発射する代わりに、未知なるものに手を伸ばす公開。この論説で言及されている陰謀について直接の知識を持って名乗り出てこられる人々、このような狂気を暴露したいと思っている人々は、どうか www.cseti.org [または www.disclosureproject.org] に連絡して欲しい。秘密の暗黒が耐えられないものは、その真上に照射されるスポットライトである。そのライトを持っている人々が多ければ多いほどよい。

善良な人々が何もしなければ、悪魔が足を踏み入れてくる。これは、人類数千年の歴史を通じて教えられた教訓である。我々は、我々を待ち受ける新時代、新世界の始まりに立っている。しかし我々は、それを受け入れ、それが生まれるように助力する必要がある。我々が受け身でいると、他の誰かが彼らの思うようにやるだろうからだ - 少なくとも、短期的には。

スティーブン・M・グリア 医師
CSETI 責任者
バージニア州アルベマール郡
1999 年 10 月 21 日

補遺：2002 年 6 月 12 日
スティーブン・グリア博士は公開プロジェクト(ディスクロージャー・プロジェクト)の責任者でもある。
ウェブサイト -- <http://www.disclosureproject.org>

(訳：廣瀬 保雄)